法律草案

一

帝國裁判所構成法草案

商法草案

和装本
ワ17
2567
1

明治29年6月15日
帝国図書館蔵書 氏寄贈

帝国裁判所構成法草案目次

第一編　裁判權　自第一條　至第八條
第二編　裁判所及檢事局　自第九條　至第六十二條
第一章　總則　自第九條　至第十二條
第二章　区裁判所　自第十三條　至第十七條
第三章　地方裁判所　自第十八條　至第二十四條
第四章　控訴院　自第二十五條　至第三十九條
第五章　大審院　自第四十條　至第四十六條
第三編　裁判所及檢事局ノ官吏　自第四十七條　至第六十二條
第一章　判事又ハ檢事ト為ルノ要件　自第六十三條　至第百十四條

7 保7
帙 2.567
巻 1

第二章　判事　自第六十三条　至第七十三条
第三章　検事　自第七十四条　至第八十七条
第四章　裁判所書記　自第八十八条　至第九十三条
第五章　執達吏　自第九十四条　至第百四条
第六章　廷丁　自第百五条　至第百十二条
第四編　司法事務ノ取扱
第一章　開廷　自第百十三条　至第百十四条
第二章　裁判所ノ用語　自第百十五条　至第百十七条
第三章　裁判ノ評議及ト言渡　自第百十八条　至第百二十七条
第四章　裁判所及ト検事局ノ事務取扱　自第百二十八条　至第百三十一条
第五章　司法年度休暇及ト休日　自第百三十二条　至第百三十七条
第六章　司法共助　自第百三十八条　至第百四十四条
第五編　司法行政ノ職務及ト権　自第百四十五条　至第百五十七条

宮内省図書寮

帝国裁判所構成法草案

第一編　裁判權

第一條　凡ソ裁判權ハ天皇ノ御名ヲ以テ裁判所之ヲ行フ

第二條　裁判所ハ獨立シテ法律以外ノ權力ニ服スルヿ無シ

第三條　何人ト雖モ法律ニ由テ得タル裁判官ヲ奪ハルヽ權利ハ之ヲ奪ハルヽヿ無シ

第四條　例外裁判所ハ戰爭或ハ嚴重ノ暴動ノ時ニ行フ場合ニ限リ特別法ニ依ルヿヲ設クルヿヲ得ス

第五條　軍事裁判所懲戒裁判所行政裁判所權限裁判所及ヒ例外裁判所ノ行フ裁判權ヲ除キ凡ソ民事及刑

事ノ裁判權ハ此法律ニ依テ設ケタル通常裁判所及
商事々件ニ關シ船舶事件ニ關シ造船工ト職工トノ間ニ起
リタル事件ヲ裁判スル爲メ必要アリト認ムル特別法ニ依テ
設ケタル特別裁判所之ヲ行フ

第六條　此法律ノ條項ニシテ地方裁判所ニ適用スルモノハ前
條ノ特別裁判所ニモ亦之ヲ適用ス但其特別裁判
所ヲ設ケタル法律ニ因テ變更セラレタル場合ニハ適用スルカラスト
セラレタルモノハ此限リニ在ラス

第七條　警察官ノ行フ裁判ノ權ハ違警罪事件ニ限ル但此
權ハ當地ノ正裁判所ノ審問ヲ請求スルヲ妨ケス

第八條　通常裁判所及ビ特別裁判所ノ裁判權ハ官吏ニ因
テ對スル訴ヘニ付テモ之ヲ行フ但特別法ニ依テ裁判スルモノ
ハ此限リニ在ラス

右訴ヲ裁判スルニ付此等ノ裁判所ノ權限ニ係ル爭訟
權限裁判所之ヲ裁判ス

第二編　裁判所及ビ檢事局

第一章　總則

第九條　左ノ裁判所ヲ通常裁判所トス

第一　正裁判所

第二　地方裁判所

第三　控訴院
第四　大審院

一　裁判所ヲ除ノ外ハ合議裁判所トス合議裁判所ハ數人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ訴訟法若シハ特別法ニ別段規定セル総テノ事件ヲ審問裁判スルヲ謂フ

第十條　裁判所ノ設置及ヒ廢止ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

裁判所ノ位置及ヒ其管轄区域ノ変更ハ同令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　裁判所ハ裁判所長部長ヲ合セテ相應ナル員數ノ判事ヲ置ク

此員數ハ毎年司法大臣ノ報告ヲ得テ藏計豫算中ニ内閣之ヲ定ム

第十二條　各裁判所ハ検事局ヲ附置ス検事局ハ刑事ニ付テ公訴ヲ起ス之ヲ取扱フト雖モ必要ナル總テノ手續ヲ爲シ法律ノ適用ヲ請求シ及ヒ裁判所ノ判決ヲ適當ニ執行スルヲ監視ス又検事局ハ裁判所ニ屬シ若シハ関係總テノ司法事件及ヒ行政事件ニ付キ公益ノ代表者トシテ法律ノ定ムル其權内ニ於ヘ監督權及ヒ監督職務ヲ行フ

検事ハ裁判所ニ對シ独立シテ其事務ヲ取扱フ

検事局ノ管轄区域ハ其附置セラルル裁判所ノ管轄区域ニ同シ

若し二人ノ検事に若りに數人ノ検事急り差遣すり或ハ事件ヲ取扱フヲ得サルトキハ裁判所長ハ正裁判所ニテハ第事若り監督判事ハ至當ト思量シ且其事件猶豫スヘカラサルトキニテハ検事ノ代理ヲ命シ其事件ヲ取扱シムルヲ得

右代理ハ必要ナル場合ニハ判事ヲ以テ之ニ充ツルヲ得

第十三條　検事局ニ検事ヲ置ク

其員數ノ検事ヲ置ク

此員數ハ毎年司法大臣ノ報告ヲ得テ歳計豫算中ニ内閣之ヲ定ム

第十四條　各裁判所ニ書記局ヲ設ク書記局ニ總テ往復計算出納記録其他此法律及他ノ法律ニ特定シタル事務ヲ取扱フ

裁判所ニ附置セラルル検事局ニ於テ右ノ如キ事務ヲ取扱フ為ノ必要アリト認メタルトキハ別ニ書記局ヲ設クルヲ得但會議裁判所ノ検事局ニハ

裁判所ノ計算及出納ヲ專任スル為ノ必要ナルトキハ二人若リハ二人以上ノ特別官吏ヲ置クヲ得

第十五條　裁判所ニ執達吏ヲ置ク執達吏ハ裁判所ヨリ發スル總テノ文書ヲ送達シ及ビ裁判所ノ執行スル權ヲ有ス

其他執達吏ハ此法律ヲ以テ他ノ法律ニ定メタル特別ノ職務ヲ
任ス

第十二條　法律ヲ以テ特定セサル左ノ場合ニ於テ適當ノ申
請アルトキハ関係裁判所ヲ併セテ管轄スル直近上級ノ裁
判所ハ何レノ裁判所ヲ本件ヲ裁判スル權アルヤヲ判ス

第一　當然權限ナク裁判所カ法律若クハ特別ノ事情ニ因リ
差支アリテ裁判權ヲ行フヲ得ス且此法律第十九條
ニ依テ代理ヲ命セラレタル裁判所モ亦同樣ノ差支アル
第二　裁判所ノ管轄區域境界ニ付キ疑ヲ生シタルトキ

第三　法律ニ定ムル又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所
裁判權ヲ互有スルトキ

第四　二以上ノ裁判所權限ヲ有セサル確定判決ヲ為シ
又ハ確定判決ヲ受ケタルモ其裁判所ノ一裁判權ヲ行フ
ヘキトキ

第二章　区裁判所

第十七條　区裁判所ノ裁判權ハ其裁判所ノ判事一人以上ヲ置キ
タルモ單獨判事之ヲ行フ
判事二人以上ヲ置キタル区裁判所ニ於テハ其裁判事務ヲ司
法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ判事中ニ分配ス

此事務分配ハ毎年地方裁判所長豫メ之ヲ定ム

区裁判所判事ノ為シタル事務裁判事務分配ノ法ハ其裁判所ノ他ノ判事ニ属シタリト雖モ其効力ヲ失フ

判事二人以上ヲ置キタル区裁判所ノ行政事務ハ監督判事タル主席ノ人ハ司法大臣之ヲ委任ス

第十八条 事務ノ分配一度ニ定マリタルトキハ一人ノ判事ノ事務過多トナリタル又ハ判事罷退シタル又ハ疾病其他ノ事故ハ因リ久シク職勤スル能ハザル継続スル不都合ヲ生シタルトキハ司法大臣ハ其度毎ニ之ヲ変更セス

第十九条 区裁判所ノ判事ハ毎年地方裁判所長豫メ定メタル順序ニ従ヒ互ニ代理ス

区裁判所ニ於テ法律若シクハ特別ノ事情ニ因リ差支アリテ事務ヲ取扱フヲ得サルトキハ之ヲ代理スヘキ区裁判所ハ右同様ニ毎年豫メ之ヲ定ム

第二十条 区裁判所ハ民事訴訟ニ於テ特ニ第三十二条ニ定メタルモノヲ除キ左ノ事項ニ付キ裁判権ヲ有ス但豫算及支出請求ニ関シテハ民事訴訟法ノ条項ニ従フ

第一 百円ヲ超過セサル金額ニ係ル債務ノ請求

第二 債額ニ拘ハラス

(イ) 總テノ住家又ハ他ノ建物又ハ其或ハ部分ノ受取明渡
使用占據若シクハ修繕ニ関シ又ハ借人ノ家具若シクハ所
持品ノ貸借人ノ抑留シタルヿニ関シ借主ト借人
ト間ニ起リタル争訟

(ロ) 不動産ノ境界ニ係ル争訟

(ハ) 占有ニ係ル争訟

(ニ) 雇主ト雇人トノ間ニ起リタル争訟但雇期一年ヲ超過
シタル契約ニ係ル争訟(制令造人ト職工トノ間ノ争訟ニシテ
之ヲ裁判スベキヿ特別法ニ規定シタルモノヲ除リ)

(ホ) 左ニ掲ケタル事項ニ付キ旅人ト旅店若シクハ飲食店
ノ主人トノ間又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル争
訟

(一) 賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ旅行
荷物ノ運送料

(二) 旅店若シクハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護
ノ為メ預ケタル之ニ伴フ旅行荷物金銭又ハ有価物

第二十一條 左裁判所ハ此訴訟事件ニ付此律ニ定メタル範圍ニ
ヒ方法ニ依リ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有ス

第一 未成人痴癲人白痴人先聾人其他法律若シクハ国
ノ自ラ事務ヲ執ル能ハサルモノニ後見人若シクハ管財人ヲ

指揮監督スル事

第二 不動産ノ所有權ヲ關スル証書類及ビ事件ヲ相當ノ検査ヲ為シタル後登録スベキ不動産登記簿ヲ主管スル事

第三 一人若シクハ組合ヲシテ商業ヲ営ムモノヽ登記簿會社登記簿船舶ノ登記簿及ビ中央登記所ノ登録ニ関スル事

賣權商標及ビ模様見本ノ登記簿ヲ主管スル事

第二十二條 区裁判所ハ刑事ノ件ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 違警罪

第二 本刑五十円以下ノ罰金ヲ附加シ若シクハ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ軍ハ三百円以下ノ罰金ニ當ル輕罪

第三 区裁判所管轄区域内ニ於テ犯シタル輕罪ニシテ其本刑二百円以下ノ罰金ヲ附加シ若シクハ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ軍ハ三百円以下ノ罰金ニ該リ其情前項ニ掲ケタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルヲ要セスト見ユル以テ地方裁判所ニ若シクハ支部ノ検事局ヨリ区裁判所ニ移附シタル右手続ヨリ訴追ヲ為シ犯罪ノ証明アリタル場合ニ於テ判決ヲ為スニ前何時ニテモ其情第二項ニ掲ケタル刑ニテハ相當ニ罰スルヲ得ズト見ユルトキハ区裁判所ハ之ヲ裁判スル權限ヲ有セサルヲ言渡ヲ為シ此場合ニ於テハ検事ハ

被告人ヲシテ相當ノ裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケシムル
適當ノ手續ヲ爲ス

第二十三條 其他区裁判所ノ權限ハ此章ニ掲ケタル事件ニ関
スル特別法及ビ訴訟法ニ之ヲ載ス

第二十四條 各区裁判所ノ檢事局ニハ少クトモ一人ノ檢事ヲ置ク
司法大臣ハ豫備檢事若クハ試補又ハ必要ナル場合ニ於テハ豫備
判事ヲシテ檢事ヲ補助シ及ビ之ヲ代理セシムルヲ得

第三章 地方裁判所

第二十五條 地方裁判所ハ第一審ノ合議裁判所トス
各地方裁判所ニ一若クハ二以上ノ民事部及ビ刑事部ヲ置ク若シ
必要ナル時ハ商事ニ關スル事件若クハ製造人ト職工トノ間ニ
起リタル事件ヲ裁判スル爲メ特別法ニ依テ特別裁判所トシテ
他ノ部ヲ設クルヲ得

第二十六條 各地方裁判所ニハ地方裁判所長ヲ置ク
地方裁判所長ノ職務ハ裁判所ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其行
政事務ヲ監督シ必要ナル時ハ其管轄区域内ニ住居スル官吏
ノ署名捺印ヲ認證スルニ在リ
地方裁判所ノ各部ニ部長ヲ置キ其職務ハ部ノ事務ヲ
監督シ其分配ヲ定ムルニ在リ

第二十七條 司法大臣ハ毎年各地方裁判所ノ判事二人若クハ二人以

上ノ其裁判所ノ裁判権ニ属スル刑事ニ付ノ豫備審ヲ為スヲ命ス

第二十八條 各地方裁判所ノ事務ハ毎司法年度ノ終ニ臨ミ之ノ年度ノ為ノ各部ノ各豫審判事ニ之ヲ分配ス

此分配ハ事務ノ性質又ハ其出所其他被告人ノ氏名ノ頭字ノ如キ明白ナル区別ニ従フヲ要ス

各地方裁判所ノ各部長ハ部員ニ示シ毎年豫メ之ヲ定ム

以上掲ケタル件ハ地方裁判所長ノ報告ヲ得タル後ヲ控訴院長命令ヲ以テ之ヲ定ム此報告中地方裁判所長ハ当年已ニ居ラシメタル部ヲ指テ権利ヲ有ス

第二九條 或ル部ニ於テ着手シタル事務ニテ司法年度ノ終リニ各休暇ノ始ニ臨ミ未タ終結ニ至ラサルモノハ裁判所長便利思量スルトキハ同部員ヲ以テ同部ニ之ヲ結了スルヲ得

豫審判事ニ示シタル終結ニ至ラサル事務ヲ結了スルヲ要請セラルヘシ

第三十條 第二十八條ニ従ヒ事務ノ分配及刑事ノ配置一度ニ定マリタルトキハ休暇中ヲ除キ一部ノ事務過多トナリ又ハ刑事輻輳シ又ハ疾病其他ノ事故ニ因リ久シク之ヲ勤スル能ハサル不都合ノ生ジタルトキハ司法年度中ニ之ヲ変更ス

裁判所ノ事務其現在ノ部ニ過多ナリト何時ニテモ認ムル場

合ハ於テハ司法大臣適宜ト思量スルトキハ新ニ一部又ハ數部ヲ設
クルヲ得

第三十一條　地方裁判所長差支アリテ職務ヲ從事スルヲ得サ
ルトキハ所長トシテハ官等最モ高キ部長之ヲ代理シ部長トシ
テハ立部ノ官等最モ高キ判事之ヲ代理ス
部長差支アリテ職務ヲ從事スルヲ得サルトキハ右同樣ニ其
部ノ官等最モ高キ判事之ヲ代理ス
二人以上ノ部長若シクハ判事ノ官等同シキトキハ其先任者ヲ撰ム
官等同シクシテ任官ノ先後ナキトキハ年長ノ者ヲ撰ム
地方裁判所ノ他ノ判事ハ司法大臣ノ定ムル通則ニ基キ毎年豫
メ裁判所長ノ定ムル代理順序ニ從ヒ其代理ス
判事差支アリテ或ル事件ヲ取扱フヲ得ス同裁判所ノ判事
中其代理ヲ掌シ能ハサル者ナキ場合ニ於テ其事件要急ナルトキハ
裁判所長ハ其管轄区域内ノ区裁判所判事ヲ豫備判
事ニ其代理ヲ命スルヲ得
第三十二條　地方裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判
權ヲ有ス
第一　第一審トシテ
(イ)　区裁判所若シクハ特別裁判所ノ權限ニ屬スルモノヲ除キ
他ヲ請求

(ロ) 金額ニ若リ、價額ニ拘ハラズ国ヨリ為シ又ハ対シテ為ス
物ハテノ請求
(ハ) 金額若リ、價額ニ拘ハラズ官吏ニ対シテ為ス物ハテノ請
求但シ之請求公務ヨリ起リタル時ニ限ル

第二 第二審トシテ
(イ) 正裁判所ノ判決ニ対スル控訴
(ロ) 正裁判所ノ決定及ビ命令ニ対スル法律ニ定メタル抗告

第三十三條 地方裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判権
ヲ有ス

第一 第一審トシテ
正裁判所ノ権限ニ属シ、又審院ノ特別権限ニ属セサル物ハテ
ノ刑事ノ件

第二 第二審トシテ
(イ) 正裁判所ノ判決ニ対スル控訴
(ロ) 正裁判所ノ決定及ビ命令ニ対スル法律ニ定メタル抗告

第三十四條 地方裁判所ハ破産事件ニ付一般ノ裁判権ヲ有ス

第三十五條 地方裁判所ハ無訟事件ニ係ル正裁判所ノ決定及ビ
命令ニ対シ法律ニ定メタル場合ニ於テ為シタル抗告ニ付裁判権ヲ
有ス

第三十六條 地方裁判所ノ其他ノ権限ニ属シ其裁判権ヲ行フノ

範圍及ビ方法トシテ此法律ニ定メサルモノハ破産事件及ビ無
訴事件ニ関スル特別法ノ并ニ訴訟法ニ之ヲ載ス

第三十七條　司法大臣ハ地方裁判所ト其管轄区域内ノ区裁判所
ト遠隔スルカ若クハ交通不便ナルカ為メ至急ト思量スル時ハ近
地方裁判所ニ属スル民事及ビ刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱
フ為メ一若クハ二以上ノ支部ノ設置ヲ命スルヲ得且ツ司法
大臣ハ此支部ヲ閉ツベキ区裁判所ヲ定ム
支部ヲ組立ツルトキハ之ヲ設置シタル区裁判所若クハ近隣ノ
区裁判所ノ判事ヲ用フルヲ得此判事ノ撰用ハ司法大
臣ニ属ス

司法大臣ハ支部ニ勤ムヘキ豫審判事及ビ検事ヲ命ス司法
大臣ハ支部ノ本部及ビ地方裁判所ノ管轄区域内ノ区裁判所
ニ豫審判事ヲ命スルヲ得
代理ニ関スル第三十條ノ条項ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス

第三十八條　地方裁判所ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判
スヘキ諸〻ノ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ
審問裁判スヘシ三人ノ判事中一人ヲ立部ノ長トシ且ツ豫備判事ハ
如何ナル事情アルモ二人以上其部ニ列席スルヲ得ス其他ノ事件
ハ訴訟法ノ定メタル所ニ従ヒ判事之ヲ取扱フ

第三十九條　各地方裁判所ノ検事局ニ検事正ヲ置ク検事正ハ

検事局ノ他ノ事務ノ取扱ヲ指揮分配ナシ監督ス但検事局ノ其他ノ検事、事務取扱ニ付テハ何レノ事件ト雖モ特別ノ許可ヲ受ケスシテ検事正ノ代理ヲシ権ヲ有ス

第四章　控訴院

第四十條　控訴院ヲ第二審ノ合議裁判所トス

各控訴院ニ一若クハ二以上ノ民事部ナシ刑事部ヲ置ク

第四十一條　各控訴院ニ控訴院長ヲ置ク

控訴院長ノ職務ハ控訴院ノ総ノ事務ヲ指揮シ其行政事務ヲ監督スルコトヲ

控訴院ノ各部ニ部長ヲ置ク其職務ハ部ノ事務ヲ監督シ其分配ヲ定ムルコトヲ

第四十二條　事務ノ分配及ビ結了ナシ必用ナル場合ニ於テ判事ノ代理ニ付テハ第二十八條第二十九條第三十條ナシ第三十一條ヲ左ノ如ク変更ヲ以テ控訴院ニ適用ス

(イ) 右条ヲ以テ地方裁判所長ヲ控訴院長ニ改ム

(ロ) 右條ヲ以テ控訴院長ヲ大審院長ニ改ム

(ハ) 控訴院ノ判事ハ差支アリテ或ハ事件ヲ取扱フヲ得ス同院ハ其代理ヲ為シ能ハサル判事ヲ場合ニ於テ立事件要ス

件ハ之ヲ代理人ヘ判事ヲ出スヘキ旨ヲ控訴院長ヨリ其控訴院所在地ノ地方裁判所長ヘ通知シ其裁判所ノ判事ヲシテ代理ヲ為サシムルヲ得豫備判事ハ代理ヲ為サシムルヲ得ス

第四十三條　控訴院ハ左ノ事項ニ付キ裁判権ヲ有ス

第一　地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

第二　地方裁判所ノ決定及ヒ命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第三　区裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付キ為シタル地方裁判所ノ判決ニ對スル上告

第四　無訴訟事件ニ係ル地方裁判所ノ決定及ヒ命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第四十四條　控訴院ノ其他ノ権利ハ其裁判権ヲ行フノ範圍及ヒ方法トシテ此法律ニ定メタル訴訟法又ハ特別法ニヨリ定ム

第四十五條　控訴院ハ民事訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ總テノ事件ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其五人ノ判事中一人ヲ其部ノ長トス

其他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第四十六條　各控訴院ノ検事局ニハ検事長ヲ置ク

検事長ノ権ハ其他ノ検事ノ権ニ付テハ第三十九條ヲ適用ス

第五章　大審院

第四十七条　大審院ノ最高裁判所トス

大審院ハ一若クハ二以上ノ民事部及ビ刑事部ヲ設ク

第四十八條　大審院ハ大審院長ヲ置キ其職務ハ大審院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其行政事務ヲ監督スルニ在リ

大審院ノ各部ニ部長ヲ置キ其職務ハ部ノ事務ヲ監督シ其分配ヲ定ムルニ在リ

第四十九條　大審院長ハ大審院ノ何ノ部ニモ属セスト雖モ必要ト認ムル部ニ長タルノ権利ヲ有ス

大審院長部ニ長タルトキハ其部ノ官等最モ低キ判事退キテ部長ハ尋常ノ部員ト為ス官等最モ低キ判事ヲ定ムルハ

第五十條　大審院ノ事務ノ分配并ニ代理ノ順序ハ毎年部長ト協議シ大審院長豫メ之ヲ定ム

第五十一條　大審院ノ判事差支アリテ或ハ事件ヲ取扱フヲ得ス同院ハ其代理ヲ為シ能ハサル判事ナキ場合ニ於テ其事件要急ナルトキハ大審院長ハ其所在地ノ控訴院長ヲシテ差支アル判事ノ代理ヲ為サシムルヲ得

第五十二條　大審院長ハ何時ニテモ部長若クハ部員ノ義務ヲ執ルヲ他ノ部ニ轉セシムルヲ得

第五十三條　前條ニ係テ部ノ組立ヲ変更シタルトキハ現ニ取扱中ノ事

務ニ付テハ第二十九條ノ条項ヲ適用ス

司法年度中事務分配ノ変更ニ付テハ第三十条ノ條項ヲ適用ス

第五十三條　大審院ニ於テ裁判ヲ為ス當リ法律ノ点ニ付テ表シタル意見ハ其訴訟一切ノ事ニ付テハ下級裁判所ヲ羈束ス

第五十四條　大審院ノ各部ノ部ニ於テ留テ判決ヲ異ニシタル法律ノ点ニ基リ上告アルトキハ大審院長ハ其上告ノ性質ニ従フ民事ノ総部若クハ刑事ノ総部又ハ民事及ヒ刑事総部聯合シテ之ヲ審問裁判スヘキヲ命スルノ権ヲ有ス但此命令ハ一部ニ於テ未タ其上告ノ審問ニ着手セサル限リ

第五十五條　大審院ノ或ル部分ニ於テ上告ヲ審問シタル後法律ノ同一ノ点ニ付曾テ一若クハ二以上ノ部ニ於テ為シタル判決ト相反スル意見アルトキハ其部ニ之ヲ大審院長ニ報告シ大審院長ハ其報告ニ因リ上告ノ性質ニ従フ民事ノ総部若クハ刑事ノ総部又ハ民事及ヒ刑事ノ総部ニ審問シ及ヒ裁判スヘキヲ命ス

第五十六條　大審院ハ左事項ニ付キ裁判権ヲ有ス

第一　次審トシテ

(イ)　第四十三條第三ニ依テ為シタル判決ニアラサル控訴院判決ニ対スル上告

(ロ) 控訴院ノ決定ヲ命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

(ハ) 無訟事件ニ係ル控訴院ノ決定ヲ命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二 第一審トシテ終審トシテ

刑法第二編第一章ノ及第二章ニ掲ケタル皇族ニ対シ重罪ヲ犯シタル罪ニシテ禁錮ニ処スヘキモノ、豫審及ヒ裁判

第五十七條 前條第二ニ掲ケタル事件ニ付キ大審院ハ必要アリト認メタル事件ノ審問裁判ヲ停止シ控訴院若シクハ地方裁判所ニ於テ法廷ヲ開クヲ得

此場合ニ於テハ控訴院刑事ノ部員ニ充ツルヲ得

第五十八條 大審院ノ其他ノ権限并ニ大審院ノ裁判権ヲ行フ範圍及ヒ方法ヲ以テ此法律ニ定メタルモノヲ除ク外訴訟法ニ特別法ニ之ヲ定ム

第五十九條 大審院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ總テノ事件ハ七人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其七人ノ判事中一人ヲ其部ノ長トス

第六十條 第五十四條ニ定メタル場合ニ於テハ聯合部ノ判事少クトモ三分ノ二列席参與スルヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ民事ノ總部若シクハ刑事ノ總部聯合スル事

ハ民事及ビ刑事ノ總部聯合スルトキハ總部ノ判事中官等最モ高キ者ヲ部長ト為ス大審院長已ニ至當ト思量スルトキハ總部ノ長タル權利ヲ有ス

其他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第六十一條　大審院長ハ第五十二條ノ條項ニ依リ大審院ニ於テ第一審ニシテ終審ヲ為スヘキ各別ノ場合ニ付キ大審院ノ判事ヲ豫審ノ命シ且其判事差支アリテ豫審ヲ為シ能ハサル場合ニ於テ法律上之ヲ代理スヘキ判事ヲ命ス但第五十七條ノ場合ニハ開廷地所在ノ地方裁判所判事ヲシテ豫審ヲ為シムルヲ得

第六十二條　大審院ノ檢事局ニハ檢事總長ヲ置ク

檢事總長ノ權ハ其他ノ檢事ノ權ニ付テハ第三十九條ヲ適用ス

第三編　裁判所及ビ檢事局ノ官吏

第一章　判事及ビ檢事ト為ルヘキ資格

第六十三條　判事及ビ檢事ト為ルヘキ者ハ此法律ニ掲ケタル例外ノ場合ヲ除キ二個ノ競爭試驗ヲ經ルヲ要ス

第六十四條　志願者ハ此二個ノ競爭試驗ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格及ビ此試驗ニ関スル總テノ細目ハ判事檢事登用試驗規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第一回ノ試験ニ及ハサルモノハ第二回ノ試験ヲ受クル以前試補
トシテ裁判所及ビ検事局ニ於テ三年間實地修習ヲ為シ
ヲ要ス
帝国大学法科卒業生ハ第一回ノ試験ヲ経ズシテ試補ヲ
命セラルヽヿヲ得
此修習ニ関スル細目ハ試験規則中ニ之ヲ定ム
第二十五條 試補ハ前條ノ掲ケタル實地修習ヲ始ムル前忠實ニ
天皇ニ仕ヘ職分ニ盡スヘキヿヲ式ニ依リ宣誓シ確言ス
第二十六條 司法大臣ハ試補ノ行狀ヲ詳ラカニシテ之ヲ罷免スルヿヲ得
スルヿヲ得

此罷免ニ関スル細目ハ右試験規則中ニ之ヲ定ム
第二十七條 一年以上修習ヲ為シタル試補ハ其修習ヲ現ニ監督スル
判事ノ指揮アレハ区裁判所ニ於テ或ハ司法事務ヲ取扱フヿヲ得
豫審判事及ビ地方裁判所ノ受命判事モ亦其附属ノ試補
ヲシテ已ニ代リ或ハ事務ヲ取扱ハシムヘキヿヲ得
第二十八條 試補ハ如何ナル場合ニ於テモ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ
有セス
(イ) 訴訟事件無訴訟事件破産事件ニ関シテ裁判ヲ為スヿ
(ロ) 證據ヲ取ル事(前條第二項ノ場合ヲ除ク)
(ハ) 登記簿ニ登録ヲ為スヿ

第二十九條　第二回ノ選擇試驗ニ及第シタル試補ニ之ヲ判事又ハ
檢事ニ任ス

第七十條　新任ノ判事又ハ檢事ニ缺位アル時ハ直チニ場合ニ從テ
之ヲ正裁判所若シクハ地方裁判所ノ判事又ハ正裁判所若シクハ地方
裁判所ノ檢事局ノ檢事ニ補ス
司法大臣ハ缺位アルトキハ之ヲ豫備判事又ハ豫備檢事トシテ執
務スヘキ命令ヲ司法省又ハ正裁判所又ハ地方裁判所又ハ此等
ノ裁判所ノ檢事局ニ用ヒ

第七十一條　正裁判所又ハ地方裁判所又ハ此等ノ裁判所ノ檢事局
ニ用ヒラレタル豫備判事又ハ豫備檢事ハ判事又ハ檢事缺乏ノ

テ職務ヲ行フヲ得サル直常ノ代理法ニ依リ難キカ又ハ之ニ
依ルトキハ大審院若シクハ此法律ノ原則ニ從ヒ司法大臣ノ許可シ
タル其判事又ハ檢事ヲ代理スルヲ得
又司法大臣ハ正裁判所又ハ地方裁判所ノ判事又ハ此等ノ裁判所
ノ檢事局ノ檢事ニ缺位ノ存スル間ハ此法律ノ許ス限リ豫備
判事又ハ豫備檢事ニ其缺位ヲ充タスヲ許スヲ得

第七十二條　三年以上帝國大學法科教授若シクハ辯護士タル者ハ此
章ニ掲ケタル試驗ヲ經スシテ判事又ハ檢事ニ任セラルヽヲ得

第七十三條　左ニ掲ケタル者ハ判事又ハ檢事ニ任セラルヽヲ得ス
(イ)　重罪ヲ犯シタリト確定セラレタル者但國事犯シテ復權

ルノハ者ハ此限ニ在ラス

(ロ) 法律ノ服スヘキ軽罪ヲ犯シタリト確定セラレタル者

(ハ) 債務ノ免除ヲ得タル破産者

第二章　判事

第七十四條　判事ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ天皇之ヲ任ス其任官ヲ終身トス

任官ノ式ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七十五條　判事任官ノ上ハ司法大臣ハ直チニ之ヲ某裁判所判事ニ補スヘシ但位ナキ者ハ位アルヲ之ヲ豫備判事ニ補ス

總テノ其後ノ補職ハ司法大臣之ヲ為ス

第七十六條　控訴院長及ヒ大審院ノ部長ノ補職ハ内閣之ヲ為ス

大審院長ハ天皇之ヲ命ス

第七十七條　何人ト雖モ五年以上判事(豫備判事ノ勤務ヲ含ム)検事(豫備検事ノ勤務ヲ含ム)帝国大学法科教授若クハ辯護士タルヘキ者ニアラサレハ控訴院判事ニ補セラルヽヲ得ス

第七十八條　何人ト雖モ十年以上判事(豫備判事ノ勤務ヲ含ム)検事(豫備検事ノ勤務ヲ含ム)帝国大学法科教授若クハ辯護士タルヘキ者ニアラサレハ大審院判事ニ補セラルヽヲ得ス

第七十九條　第七十七條及ヒ第七十八條ニ掲ケタル時期ヲ算スルニハ補職ノ時ヨリ右ノ記ス所ノ職務ノ一若クハ二以上ニ引続キ任事

しむる事一々引続き行事これを必要とス

第六十條　判事ハ在職中左ノ件ヲ為スヲ得ス

(イ)　公然政治ニ関スル事

(ロ)　議会ノ議員又ハ社員ト為リ又ハ町村会府県会

国会ノ議員ト為ル事

(ハ)　俸給ヲ得タル又ハ金銭ノ利益ヲ目的トスル公然ノ職

ニ就ク事

(ニ)　商業ヲ営ミ又ハ他行政規則ヲ以テ禁シタル業務ヲ営ム

事

第六十一條　此条ノ条項ニ違フノ外判事ハ務停止ヲ意起ス

懲戒上又ハ刑事上ノ判決ニ因ルニアラサレハ其意ニ反シテ免官又ハ轉

官又ハ轉職轉處（特別ノ事情アル場合ニ限リ豫備判事ヲ以テ

ヲ除ク）又ハ停職又ハ一時停職セラレ又ハ退官セシメラルヽコトヲ

前項ハ懲戒取調又ハ刑事訴追ノ始ヨリ其間ニ於テ法律

ノ許ス一時ノ停職ニ関係アル事無シ

第六十二條　法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ変更スル場合又ハ裁判

所ヲ廃シタル場合ニ於テ之カ為メ補所ヲ置キタル判事ハ補

スヘキ欠位ヲ待ツ間ハ司法大臣ハ一時之ヲ俸給ノ半額ヲ給シテ欠

位ヲ待ツ間ノ権ヲ有ス

第六十三條　判事（豫備判事ヲ含ム）ハ定ノ俸給ヲ受ク

判事ノ官等俸給及進級ノ順序ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十四条　補所ノ判事ハ在官中其俸給ノ全額ヲ受ク但

第八十二条ニ於テ俸給ノ半額ヲ受クベキト定メラレタル場合ハ

此限ニ在ラズ

第八十五条　判事ハ其俸給ノ外裁判事務取扱ノ為メ他ノ報酬ヲ受クルヲ得ズ但法律ノ許シタル手當及賠償ハ此

限ニ在ラズ

第八十六条　判事ハ退官シタル時ハ恩給法ノ条項ニ依リ恩給ノ受クル権利ヲ有ス

第八十七条　判事ノ俸給ハ判事ニ對シ懲戒取調又ハ刑事

訴追ヲ始ムルカ故ニ停職シタル時ハ引続キ之ヲ給ス

第三章　検事

第八十八条　第七十四条第七十五条及第八十二条ノ規定ハ検事ニ之ヲ適用ス

一　検事ノ変更ヲ以テ検事（豫備検事ヲ含ム）ニ変ズルヲ適用ス

㋑　検事長及検事総長ノ補職ハ内閣之ヲ為ス

㋺　検事ハ終身官トシ長官ノ公務停止ヲ宣告シタル懲戒上又ハ刑事上ノ裁判ニ因リテハ其意ニ反シテ之ヲ免官スルヲ得

第八十九条　検事（豫備検事ヲ含ム）ハ一定ノ俸給ヲ受ク

検事ノ官等俸給及進級ノ順序ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十條　極事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ判事ノ裁判事務ニ関シ
他ノ又ハ裁判事務ヲ取扱フヲ得ス
第九十一条　極事ハ其上官ノ命令ニ従フ
第九十二条　極事正極事長及ビ極事鳩長ハ其各管轄区域
内ノ裁判所ノ極事ノ職務ヲ範圍内ニ在ル事務ヲ自ラ取
扱フノ権ヲ有ス
又極事正極事長及ビ極事鳩長ハ右管轄区域内ニ於テ通
常ノ手続ニ依ル某極事ノ取扱フヲ事務ヲ他ノ極事ニ移ス
ノ権ヲ有ス
第九十三條　司法警察官ニシテ判ニ極事ノ職務上ニ極事局管

轄区域内ニ登ニシテ他ノ命令及ビ右極事ノ上官ノ発シ
タル命令ニ従フ
司法部及ビ内務部ハ協議シテ警察官中ニ裁判所ノ
管轄区域内ニ於テ司法警察官ト為シ執務シ右命令ヲ受
ケタルヲ執行スルノ職務ニ任ズルヲ定ム

第四章　裁判所書記

第九十四條　裁判所及ビ極事局ノ此律第十四条ニ従ヒ相應ナ
ル員数ノ書記ヲ置ク
此員数ハ毎年司法大臣ノ報告ヲ得テ蔵計豫算中ノ内閣ニ
定ム

正裁判所ノ判事及ビ合議裁判所ノ各部ノ為メ一般ニ其ノ
トモ 之ノ書記ヲ置ク

第九十五條 地方裁判所ノ書記局ニ監督書記ヲ置ク控訴院及ビ大
審院ノ書記局ニ書記長ヲ置ク

正裁判所ノ書記局ニ之ニ次ク書記ヲ置キタルトキハ其ノ人ヲ監督書
記トス

各所裁判所ノ控訴局ニ別ニ書記局ヲ設ケタルトキハ亦監督書記
ヲ置ク

監督書記及ビ書記長ハ其名上官ノ命令ニ服従シテ書記局ノ
事務ヲ指揮監督ス

第九十六條 書記ハ職務ノ範圍内ニ於テ為シタル總テノ事務
ニ付テハ事務方配ニ従ヒ他ノ書記ノ為スヘカリシ事實ノ
ミヲ以テ之ヲ無效ト為ス

第九十七條 書記ノ任補ハ司法大臣之ヲ為ス

書記長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ之ヲ任ス其補職ハ司法大臣之ヲ
為ス

書記及ビ書記長ハ一定ノ俸給ヲ受ク

書記及ビ書記長ノ官等俸給及ビ進級ノ順序ハ勅令ヲ以テ
之ヲ定ム

書記及ビ書記長ハ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル場合及ビ金

額に恩給法ノ以テ之ヲ定ム

第九十八條　書記ノ任セラルヽ者ハ豫メ二回ノ競爭試驗ヲ經ルヿヲ要ス

若額者ノ此二回ノ競爭試驗ヲ受ケ得ル必要ナル資格并ニ此試驗及ヒ第一回ノ試驗ヲ經タル後為スヘキ修習ノ期及ヒ細目ハ裁判所書記登用試驗規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

書記長ノ任セラルヽ者ハ少ナクトモ五年以上書記ノ職務ニ引續キ從事シタルヿノ隱ハ別ニ高等試驗ヲ經ルヿヲ要ス

第九十九條　書記ノ任セラルヽ者ハ他ノ官吏ニ書記局書記ヲ補スル但缺位ナキ間ハ豫備書記ヲ補ス

豫備書記ハ一時間書記トシテ執務スルヿヲ命セラルヽヿヲ得

第百條　左ノ事務ハ書記專ラ之ヲ取扱フ

第一　他ノ事件ニ關シ訴訟ヲ裁判所ニ差出シタル他ノ書記類ヲ受取リ之ヲ整頓シ且之ニ付キ適當ナル取扱ヲ拂ヒタルヤヲ監査スル事

第二　法廷ニ於テ爲ス他ノ訴訟ノ記錄ヲ作ル事

第三　裁判官ノ他ノ法廷外ノ書類ニシテ裁判所ノ記錄若シクハ登記簿ノ一部ヲ成サヽル法律ニ從ヒ記錄シタル謄本ヲ交付スル事

第四　裁判所ノ裁判ヲ執行スル為ノ又ハ之ヲ施行スルヲ得セシム為ノ必要ナル認証書ヲ訴訟法ニ定メタル手続ニ従フ発スル事

第五　裁判所ノ登記簿及ビ簿冊、書類及ビ其他ノ事件ノ登録及ビ証人ノ請願ヲ受ル事

第六　裁判所ノ縦ヲノ訴訟ノ記録ニ、裁判所ニ於テ登録スヘキ登記簿ヲ管守スル事

第百一條　書記ハ法律上必要ナル時、所有ノ財産ニ裁判所ノ封印ヲ附シ又ハ之ヲ取除ノ権ヲ有ス

又書記ハ其所属裁判所ノ管轄区域内ノ事務ヲ取扱フ仁証人ナキ時又ハ之ニアリト定ル其用ヲ得ル能ハサル左ノ事務ヲ取扱フヲ得

(イ)　為替手形約束手形及ビ其他ノ流通証書ノ署証ヲ為ス

又ハ拒証ヲ作ル事

(ロ)　財産目録ヲ作ル事

書記ハ此条ニ定メタル事務ヲ取扱フ毎ニ豫メ裁判所長ノ許可ヲ受ケタル裁判所ニ於テ裁判事務ノ監督裁判事ノ許可ヲ受ケ

其他書記ノ権限ニシテ此法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ニ之ヲ定ム

第百二條　書記ハ其上官ノ命令ニ従フ裁判所ノ開廷ニ於テハ裁判

所長ノ命令ニ従ヒ判事一人ハ其判事ノ命令ニ従フ

又書記ハ検事局ニ用ヒラルヽトキハ特別ノ事務ハ付判事若クハ検事ノ附属シタルトキハ其場合ニ従フ右検事局又ハ判事若クハ検事ノ命令ニ従フ

若シ此命令ハ口述ノ書取ハ作ルヲ以テ書類記録若クハ登記簿ノ録製若クハ変更ニ係リテ其命セラルヽ録製若クハ変更ノ事情若クハ事實ニ因リ正當ナリト認ムルトキハ其録制若クハ変更ヲ為ス當リ書記ハ已ノ意見ヲ記シタル説明書ヲ之ニ添フルヲ得

其他書記ノ職務及ビ其事務取扱方法ハ書記ニ関スル規則中ハ司法大臣之ヲ定ム

第百三條　各議裁判所長又ハ正裁判所ノ判事若クハ監督判事ハ其裁判所ニ用ヒラルヽ試補ハ第百條ニ掲ケタル事務ヲ一時取扱フヲ許スヲ得

此場合ニ於テ試補ハ職務上署名スルトキハ特別ノ許可ヲ得テ署名スル旨ヲ記スヘシ

第百四條　豫備書記ハ第百條及第百一條ニ掲ケタル事務ヲ取扱フヲ付書記ト同樣ノ權ヲ有ス

右權ヲ行フ場合ハ豫備書記ノ為スヲ得ハ其他ノ職務ハ書記ニ関スル規則中之ヲ定ム

第五章　執達吏

第百五條　裁判所ハ此法律第十五條ノ定ニ相應スル員數ノ執達吏ヲ置ク

此員數ハ毎年司法大臣ノ報告ヲ得テ歳計豫算中ノ内閣ニヲ定ム

第百六條　執達吏ハ司法大臣ニヲ任シ及ヒ之ヲ補スル司法大臣ハ控訴院長ハ其管轄区域内ノ裁判所ノ執達吏ヲ任シ及ヒ補スルヲ許可スルノ權ヲ有ス

第百七條　執達吏ハ一定ノ俸給ヲ受ク此俸給ハ其官等ニ從フ執達吏ハ給ヲ受クルノ權利ヲ有スル場合及ヒ其金額ハ勅令

法ヲ以テ之ヲ定ム

第百八條　執達吏ハ任ヲ受ケ書記ノ登用試驗ヲ經テ豫ノ執達吏タル資格ヲ有スルヲ要ス其他必要ナル資格竝ニ試驗及ヒ第二回試驗ヲ經タル後尚スキ例習ヲ閲スル細目ハ執達吏登用試驗規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第百九條　執達吏ハ區裁判所ノミニ之ヲ置ク各区裁判所ニハ少クトモ一人ノ執達吏ヲ置ク

執達吏ハ其所属区裁判所ノ管轄区域内ノ何レノ場所ニ於テモ其職務ヲ行フノ權ヲ有ス

第百十條　裁判所ヨリ発スル書記ヲ送達ヲ要スルモノハ總テ執達

吏ヲ以テ之ヲ送達ス但書記ヨリ直接ニ通知便ヲ以テ送達スルヲ法律ノ許ス場合ニ此限ニ在ラス

又執達吏ニ刑事ニ付キ警察官ヲ以テ執行ヲ命セル場合ニ限リ裁判所ノ裁判ヲ執行ス

其他執達吏ノ権限ニ訴訟法ニ特別法ニ之ヲ定ム

第百十一條　執達吏ニ其職ニ補セラルル前職務ヲ適實ニ行フ為メ充分ナル擔保ヲ出スヲ要ス

其他執達吏ノ行フ職務ニ付キ擔保ノ價額及ヒ性質ニ付テハ細目ハ執達吏ニ関スル規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第百十二條　執達吏ニ其所属裁判所ノ書記及ヒ其裁判所ノ管轄スル地方裁判所ノ書記及ヒ右書記ノ上官ノ命令ニ従フ

第六章　廷丁

第百十三條　廷丁ハ地方裁判所控訴院及ヒ大審院ニ於テ裁判所長区裁判所ニ於テハ地方裁判所長之ヲ雇ヒ及ヒ辞雇ヲ解ス

第百十四條　廷丁ハ常廷ニ出頭セシメ及ヒ其他司法大臣ノ発シタル一般ノ規則中ニ定メタル事務ヲ取扱ハシムル為ノミ之ヲ用フ区裁判所ハ執達吏ヲ用ヒルヲ能ハサル時ハ其裁判所ノ在地ニ於テ書類ヲ送達スル為ノミ廷丁ヲ用ヒルヲ得

第四編　司法事務ノ取扱

第一章　開廷

第百十五條　開廷、裁判所ニ於テ之ヲ為ス

元以上ノ刑事ヲ置キタリトモ裁判所ハ司法大臣ニ於テ事情ニ因リ必要アリト認ムトキハ其命令ニ依リ管轄区域内ノ其裁判所ニ在地外ノ一定ノ場所ニ於テ臨開廷スルヲ得

第百十六條　訴訟審問ノ上席及ビ指揮ハ合議裁判所ニ於テハ開廷ヲ為シタル裁判長ニ属シ裁判所ニ於テハ開廷ヲ為シタル刑事ニ属ス

裁判長ニ属スル権、裁判上ニ於テ執務スル判事ニモ亦属ス

第百十七條　判決ヲ為ス裁判所ニ於テハ訴訟ノ審問（刑事ノ予豫審ヲ除リ）ハ公開シタル法廷ニ於テ之ヲ行フ但シ法廷ニ於テ之ヲ言渡ス

第百十八條　前條ノ條項ハ公ケニスルカ公ケノ秩序又ハ風俗ヲ害スル恐アリト裁判所ニ於テ思量スルトキハ審問中公衆ヲ退カシムルヲ妨ケス

右件ノ係ル裁判ハ其理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前ニ之ヲ言渡スベシ場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡ストキハ常ニ再ビ公衆ノ入廷ヲ許ス

第百十九條　裁判長ハ公衆ヲ退カシタルトキハ之ヲ入廷セシムルノ権利ヲ有ス

第百二十條　第百十七條ノ條項ハ裁判所ニ於テ或ル理由ヲ為シ公

家ノ法廷ノ或ハ數ヶ限リ又婦女兒童ナド相當ナル丸服ヲ着セサル者ヲ法廷ヨリ退カシムルヿヲ姉ケス其理由ヲ訴訟ノ記錄ニ記ス

第百二十一條　開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス

第百二十二條　裁判長ハ訴訟審問ヲ妨ケル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムル權ヲ有スル裁判長ハ其者ノ行狀ニヨリ勾引シ開廷ノ時マテ勾留スルヿヲ命スル權ヲ有ス開廷ノ時裁判所ハ之ヲ釋放スルヿヲ命スルカ又ハ五日以下ノ罰金若クハ五日以下ノ拘留ニ處ス

此處罰ハ對シテハ上告ヲ許スト雖ヒ控訴ヲ許サス且右所爲カ輕罪若クハ重罪ト爲ルトキハ之ニ對シテ刑事訴追ヲ爲スヿヲ妨ケス

第百二十三條　前條ノ各項ハ左ノ要更ヲ以テ當事者證人及ヒ鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス

㋑　裁判所ハ此等ノ者ヲ開廷ヲ待タスシテ即時ニ罰スルヿヲ得

㋺　犯人自白セル中ハ裁判所ハ慶恕ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ謝セ又ハ其審問ヲ中止スルヿヲ得

第百二十四條　裁判長ハ不當ノ言語ヲ用ヒル辯護士ハ同事件ニ付キ裁判所ハ對シテ引續キ陳述スルノ權利ヲ行フヿヲ拒ムヿヲ得

右拒絶ニ対スル懲戒ヲ訴追ノ妨ケヲ

第百二十五條　裁判所ノ開廷中秩序ヲ維持スル為ノ第百二十二條

第百二十三條及ビ第百二十四條ノ以テ與ヘラレタル権ハ豫審ノ為シ

又ハ命ズル限リ執務スル刑事又ハ他ノ従ニ右職務ヲ行フ試補モ

亦之ヲ行フヲ得

此場合ニ於テノ異議ハ二十四時以内ニ其刑事又ハ試補ニ之ヲ申

出ヘシヲ得

豫審判事又ハ其命ヲ受ケタル試補カ命令ヲ為シタル中ハ其刑

事ノ属スル裁判所ノ刑事部若クハ刑事支部ニ於テ右ノ異

議ヲ裁判スル命ハ限リ執務スル刑事又ハ其命ヲ受ケタル試

補カ命令ヲ為シタル中ハ其刑事ニ命シタル裁判所ニ於テ之ヲ裁

判ス

第百二十六條　第百二十二條第百二十三條第百二十四條及ビ第百二十五

條ヲ以テ與ヘラレタル権ヲ行ヒタル中ハ訴訟ノ記録ニ之ヲ記載ス

要セシ理由ヲ記ス

其所為カ重罪若クハ軽罪ニ為ルカ又ハ懲戒上罰スヘキモノ

ナル中ハ詳細ニ之ヲ記載ス裁判長ハ其事件ヲ更ニ裁判スル権アル官

廳ニ報告ヲ為ス

第百二十七條　判事検事及ビ裁判所書記公開シタル法廷ニ於テ

一定ノ職服ヲ着

右開廷ニ於テ審問ニ参與スル辯護士モ亦一定ノ職服ヲ着スルヲ要ス

第二章　裁判所ノ用語

第百二十八條　裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ユ

當事者　證人又ハ鑑定人中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法ニ特別法ニ通事ヲ用ヒルヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ用ユ

第百二十九條　通事ノ任命及ヒ使用並ニ訴訟手續上其行フヘキ職務ニ関スル規則ハ司法大臣之ヲ発ス

第百三十條　通事ノ用ヲ容易ニ得ルヲ能ハサルトキハ書記ハ相應其言語ニ通セル裁判長ノ某諾ヲ得テ通事ニ用ヒルヲ得

第百三十一條　外国人ノ當事者タル訴訟ニ利害ノ関係アル總テノ人及ヒ其訴訟ノ審問ニ参與スル總テノ官吏カ或ル外国語ニ通スル時ハ裁判長便利ト思量スル所ニ於テハ其外国語ヲ以テ口頭審問ヲ為スヲ得但其審問ノ公正記錄ハ日本語ヲ以テ之ヲ作ル

第三章　裁判ノ評議及ヒ言渡

第百三十二條　合議裁判所ノ裁判ハ此法律ノ條項ニ依ル定數ノ判事之ヲ評議シ及ヒ之ヲ言渡ス

第百三十三條　三日ヲ超過シテ継続スル見込アル刑事ノ審問ニ於テハ裁判所長ハ之ニ立會シ公為ノ補充刑事ニ之ヲ命スヘシ

ヲ得此補充判事ハ其審問中或ハ判事カ疾病其他ノ事故
ヨリ引続キ之ヲ繰ル能ハサル場合ニ於テ之ニ代リ審
問ヲ完結(裁判ノ評議ニ与ル権ヲ有ス)

第百三十四條 判事ノ評議及ヒ其意見ノ陳述ニ之ヲ公行セス
前項ノ評議補豫備判事又ハ裁判所他ノ部ノ判事ノ傍
聽ヲ妨ケスト雖モ権能ノ効力ヲ有ス

此評議ハ其部長ノ為リテ之ヲ開キ且之ヲ整理シ
評議ノ議事并ニ各判事ノ意見及ヒ多数ナル数ノ数
ニ付テハ厳ニ秘密ヲ守ルヲ要ス

第百三十五條 評議ノ際各判事意見ヲ述ヘルノ順序ハ官等ノ最
低キ者ヨリ始メ部長ヲ最終トス官等同シキ者ハ年少ノ者
ヨリ始ム受命ノ事件ニ付テハ受命判事ヨリ始ム

第百三十六條 過半數意見ヲ以テ裁判所ノ裁判トス
金額ニ付キ判事ノ意見三説以上ナシ其説各過半數ニ至
ラサル時ハ過半數ニ至ル迄ニ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ノ
合算ス
刑事々件ニ付キ有罪無罪ノ問題ヲ除キ其意見三説以上
ナシ各過半數ニ至ラサル時ハ過半數ニ至ル迄被告人ニ不利ナル
意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第百三十七條 判事ハ裁判スヘキ問題ニ付キ已ノ意見ヲ表ス

ヿヶ推ムヿヶ得ス

第四章　裁判所及ビ控訴院ノ事務取扱

第百三十條　司法大臣ハ裁判所及ビ控訴院ノ標準ト為スヘキ規則ヲ設ケ控訴院長及ビ控訴長ハ右規則ニ依リ各之管轄区域内ノ裁判所及ビ控訴院ノ一般ノ取扱及ビ成ル統一ノ取扱ヲ付キ就中裁判所及ビ控訴院ノ開庭ノ時日ヲ付キ訓令ヲ発ス

大審院ハ自ラ其事務章程ヲ起草ス但之ヲ実施スル前司法大臣ノ認可ヲ受ク

第五章　司法年度休暇及ビ休日

第百三十九條　司法年度ハ通常ノ暦年ニ同シク一月一日ヨリ始マリ十二月三十一日ニ終ル

第百四十條　裁判所ノ夏季休暇ハ七月十日ヨリ九月十日ニ終ル

夏季休暇ハ十二月二十四日ニ始マリ一月七日ニ終ル

第百四十一條　休暇中ハ既ニ着手シタル左ノ事件外ノ総テ民事訴訟ニ着手セス

第一　為替手形若シクハ約束手形（流通手形ハ其他ノ流通証書ニ係ル請求

第二　船舶又ハ運賃ニ対スル物上権ノ請求
第三　財産差押事件
第四　法廷ノ住家其他ノ建物又ハ其敷地部分ノ受取明渡使用占據若リハ修繕ニ関シ又ハ賃借人ノ家具若リハ所持品ヲ賃貸人ノ抑留シタル事ニ関シ賃貸人ト賃借人トノ間ニ起リタル争訟
第五　養料ノ請求
第六　擔保ヲ出サシムルノ請求
第七　取壊リタル建築ノ継続ニ係ル事件
第八　其他迅速裁判所ノ判事ニ於テ又ハ民事訴訟法ノ要スル所ニ従ヒ休暇部ニ若リハ休暇部長ニ於テ直ニ着手スルヲ適当トスル旨ニ要急ノモノト思量シタル請求若リハ事件

第百四十二條　休暇中ト雖モ刑事訴訟無訟事件判決執行破産事件民事訴訟法ニ依リ略式ヲ以テ取扱フヲ得ル旨ノ訴訟ニ之ヲ停止シ又ハ之ヲ延滞セシムルヲ

第百四十三條　合議裁判所ニ於テハ休暇中事務取扱ノ為休暇部ヲ構成シ一若リハ二以上ノ部ヲ設リ此部ノ組立ハ休暇ノ始マル前裁判所長之ヲ定ム第二十九條ノ全項ハ此部ニ之ヲ適用ス

之ニ以上ノ裁判事ヲ置キタル区裁判所ノ休暇事務取扱方法ハ監督裁判事之ヲ定ム

第百四十四條　裁判所ハ左ニ掲ケタル日ヲ除キ毎日開廷ス

第一　日曜日

第二　天長節

第三　一月一日

第四　紀元節

第五　勅令ヲ以テ開会ヲ以テ休日ト定メタル日

第六章　司法共助

第百四十五條　裁判所ハ訴訟法又ハ特別法ニ定メタル場合ノ方法ニ依リ互ニ法律上ノ補助ヲ為ス

右法律上ノ補助ハ別ニ法律ニ定メタル外ハ所要事務ヲ取扱フヘキ地ノ区裁判所ニ於テ之ヲ為ス

第百四十六條　裁判所ハ訴訟事件ニ付キ自ノ管轄区域内ニ於テ取扱フヘキ事務ニ付キ互ニ法律上ノ補助ヲ為ス

第百四十七條　裁判所書記ハ亦其権内ノ事件ニ付キ互ニ法律上ノ補助ヲ為ス

執達吏ノ権内ノ事件ニ付キ互ニ法律上ノ補助ヲ為ス

左輔助ハ訴訟法又ハ特別法ニ定メタル場合ト方法ニ依リ之ヲ為ス

第五編　司法行政ノ職務及ビ権

第百四十八條　此法律ニ依リ特別ニ司法大臣ノ行フヲ要スル事務ノ外凡ソ司法事務ヲ適當ニ帝国ニ行ハシムヤウ監視スルヲ以テ司法大臣ノ職務トス

右議裁判所長及ビ裁判所ノ判事若シクハ監督判事検事総長検事長検事正ヲ司法大臣ノ由テ以テ太職務ヲ行フ官吏トス

第百四十九條　前條ニ掲ケタル職務ハ左ノ方法ニ依テ執リ及ビ行フ

監督権ヲ帯フ

第一　司法大臣ハ裁判所及ビ検事局ノ監督ス権

ヲ有ス

第二　大審院長ハ大審院及ビ依テ下級裁判長ノ監督スル権ヲ有ス

第三　控訴院長ハ各自ノ控訴院及ビ其控訴院管轄区域内ノ依テ下級裁判所ノ監督スル権ヲ有ス

第四　地方裁判所長ハ其裁判所（若シ支部アラハ之ヲ含ム）及ビ其裁判所管轄区域内ノ依テ区裁判所ノ監督スル権ヲ有ス

第五　区裁判所ノ一人ノ判事若シクハ監督判事ハ其裁判所勤務ノ書記及ビ其他ノ官吏（判事ヲ除ク）ヲ監督スル権

ヲ有ス

第六　控訴院長ハ大審院ノ控訴局及ビ他ノ下級控訴局ヲ監督スルノ権ヲ有ス

第七　控訴長ハ其控訴局及ビ其局ノ附置セラレタル控訴院管轄区域内ノ他ノ控訴局ヲ監督スルノ権ヲ有ス

第八　控訴院ハ其控訴局及ビ其局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄区域内ノ他ノ控訴局ヲ監督スルノ権ヲ有ス

第百五十條　前條ノ場合ニ於テ監督権ハ左ノ権ヲ含ム

(イ)官吏不適当又ハ不充分ナル取扱ヲ為シタル事務ニ付キ其注意ヲ促シ並ニ限リ時間ヲ定メテ適当ニ其事務ヲ取扱フヲ命ズル訓令ノ権

(ロ)官吏ニ公務施行上ニ否ト拘ハラズ其他位ニ不相應ナル行状ニ付キ之ヲ論告スルノ権但此論告ヲ為ス前其官吏ヲシテ弁明ヲ為サシムルヲ要ス

第百五十一條　第九十二條ニ掲ケタル控訴ヲ輔助スベキ官吏ハ第百四十九條ニ依リ行フベキ監督ヲ受ケタル官吏中ニシテ含ム

第百五十二條　裁判所書記ハ控訴局ノ官吏ニシテ適当ニ其職務ヲ行ハザル者又ハ其行状其地位ニ不相應ナル者ニ付キ第百五十條ヲ適用セシ能ハザル又ハ不充分ナル場合ニ於テ懲

或は懲戒上訴追ス

懲戒上訴追セラルヘキ官吏カ判事トシテ在裁判所ノ地方裁判所ノ判事たル其所属ノ裁判所ヲ管轄スル控訴院ノ判事五人ヲ以テ組立テラルル裁判所ニ於テ之ヲ裁判シ控訴院若クハ大審院ノ判事たル大審院ノ判事七人ヲ以テ組立テラルル裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

控訴院ノ判事七人ヲ以テ組立テラルル裁判所ノ懲戒判決シテ停職又ハ免官ニ係ルモノ対シテハ大審院ノ判事七人ヲ以テ組立テラルル裁判所ニ控訴ヲ為スヲ得

此條ニ掲クル裁判所ノ組立ツルトキハ其判事ヲ出スヘキ裁判所ノ判事中官等最モ高キ者ヲ取ル

右裁判所ノ裁判長ハ列席判事中官等最モ高キ者ヲ以テ之ニ充ツ

第百五十三條　前數條ヲ以テ与ヘラルル行政権及ヒ監督権ハ判事ノ為ル権事カ其官吏タルノ資格又ハ他ノ資格ヲ為シタル事ニ対シテ起リタル請求ニ付其判事若クハ権事ヨリ其請求ヲ満足セシムル為メニ用フル右請求ニ通常ノ裁判手続及ヒ裁判所ニ於テ之ヲ為スヲ要ス

前項ニ国ヨリ過分ニ受ケタル金銭ノ償還ニ適用セス

判事中官等最モ高キ者ヲ取ル

右裁判所ノ裁判長ハ列席判事中官等最モ高キ者ヲ以テ之ニ充ツ

第百五十三條　前數條ヲ以テ与ヘラルル行政権及ヒ監督権ハ判事ノ為ル権事カ其官吏タルノ資格又ハ他ノ資格ヲ為シタル事ニ対シテ起リタル請求ニ付其判事若クハ権事ヨリ其請求ヲ満足セシムル為メニ用フル右請求ニ通常ノ裁判手続及ヒ裁判所ニ於テ之ヲ為スヲ要ス

前項ニ国ヨリ過分ニ受ケタル金銭ノ償還ニ適用セス

第百五十四條　司法事務ノ取扱方法ハ對スル告訴ノ扱告就中
或ハ事務ノ取扱方ニ對シテハ取扱ノ遲滯ヲ拒絶ハ對スル
告訴ハ訴ヲ此編ニ以テ與ヘラレタル行政權及監督權ニ依リ
之ヲ處分ス

第百五十五條　裁判所ハ檢事局ハ司法大臣ニ監督權ヲ
行事ヲ指揮ス權事ノ要求アルトキハ法律上ノ事項ニ司法行政ニ
關スル事項ニ付テ意見ヲ表ス

第百五十二條　司法部ハ對シテ起リタル民事ノ訴ハ於テハ其訴
ヲ受ケタル裁判所ノ檢事局ハ司法部ノ代表シ其利益ヲ
防御ス

第百五十七條　此編ハ揭ケタル前各條ノ全項ハ如何ナル方法ヲ
ニテスルトモ裁判上執務スル裁判事ノ獨立ハ影響ヲ及ボサス又ハ之ヲ
制限スルコトナシ

商法草案

第壱編　第壱章

乃至　第六章

商法草案目錄

總則

第壹編　商ヒノ通則

第壹章　商事及ヒ商人

第弐章　商業登記簿

第参章　商號

第四章　商業帳簿

第五章　代理人及ヒ商業使用人

第六章　商事會社及其ノ他商業担合

商事會社總則

第壹節　合名會社

第弐節　會社ノ設立

第二款　會社契約変更
第三款　社員間ノ權理義務
第四款　第三者ニ対スル社員ノ權利義務
第五款　社員ノ退社
第六款　會社ノ解散
第七節　合資會社
第八節　株式會社
第一款　總則
第二款　會社発起及ヒ設立
第三款　會社ノ資産及ヒ株主名簿
第四款　株式
第五款　取締役及ヒ監査役
第六款　株主總會
第七款　定款ノ変更
第八款　株金ノ拂込
第九款　會社ノ義務
第十款　会社ノ検査
第十一款　取締役及ヒ監査役ニ對スル訴訟
第十二款　會社ノ解散
第十三款　會社ノ清算
第四節　罰則
第五節　共算商業組合

商法草案

総則

第一條　商事ニ於テハ法律ニ規定ナキモノニ付テハ商ヒ慣習及民法ノ成規ヲ適用ス

第二條　特種ノ商人又ハ商業ノ為ノニ発布シタル法律、命令及ヒ規則ノ効力ハ此法律ニ因リ妨ケラルヽ無シ

第一編　商ヒノ通則

第一章　商事及ヒ商人

第三條　商事ト商人又ハ其他ノ人ノ為シタル商ヒ取引及ヒ其他此法律ニ拘ハラス總テノ商ヒニ規定シタル事項ヲ謂フ

第四條　商ヒ取引トハ賣買賃貸又ハ其他ノ取
捌ノ方法ニ因リ産物、商品、又ハ有價証券ノ轉
換ヲ以テ利益ヲ得又ハ生計ノ為メニスル者
趣ニ応シ直接又ハ間接ニ行フ所ノ總テノ權
利行為ヲ謂フ殊ニ左ニ掲クルモノハ商ヒ取
ニ屬ス

第一　産物ノ交換、販賣ヲ目的トスル取引
第二　製造工業及手職業ノ範囲内ニ在ル作
業及ヒ取引
第三　人及物ノ運送ニ係ル作業及ヒ取引
第四　航漕ニ係ル作業及ヒ取引
第五　建築ニ係ル作業及ヒ取引
第六　銀行營業ニ係ル作業及取引
第七　流通シ得ヘキ信用證券ノ発行及ヒ流
通ニ係ル作業及ヒ取引
第八　商ヒノ為メニ為シ又ハ受クル倉庫寄
託及ヒ其他ノ寄託ニ係ル作業及取引
第九　船舶ノ賣買賃貸入、抵当構造修繕、艤装及
乗組ニ係ル作業及ヒ取引
第十　取引所取引ニ係ル作業及ヒ取引
第十一　保険ニ係ル作業及ヒ取引

第五條　其他左ニ掲クルモノハ之ヲ商ヒ取引
ト看做ス

第一　公ニ開キタル店舗、帳場差ワ其他ノ

ノ言業所ニ於テ又ハ公告ヲ為シ又ハ言ム而
替及ヒ利息若シクハ其他ノ報酬ヲ受クル
金銭貸付
第二　新聞紙及ヒ其他ノ定期印刷物ノ発行
第三　商事ニ於ケル各般ノ代理
第四　公ナル周旋所及ヒ代辨ノ言業
第五　公ナル共歓場及ヒ遊娯場ノ言業
第六　受負作業ノ引受
第六條　商人其言業ニ於テ取結ヒ又ハ他ノ商
人若クハ作業人ト取結ヒタル取引ハ反對ノ
証ナキトキハ之ヲ商ヒ取引ト看做ス
第七條　左ニ掲クルモノハ之ヲ商ヒ取引ト看
做サス
第一　戸々ニ就キ又ハ道路ニ於テ物品又ハ
労役ヲ賣ル但シ常設ノ言業所ヨリ出ツ
ルモノハ此限ニ在ラス
第二　專ラ労力賃ノミヲ得ルノ目的ニテ物
品ヲ製作シ又労役ヲ為スモノ
第三　他人ノ為メニ働作又ハ労役ヲ賃約ス
ルモノ但シ法律中此ヲ別ノ契約ニ関スル規定
ヲ掲ケサルトキニ限ル
第四　所有地又ハ借地ヨリ収穫シタル産物
ヲ賣ルモノ但シ言業ノ目的ヲ以テセサルモ
ノニ限ル

第八條　不動産ニ関スル權利ヲ目的トスル契約ハ商ト取引ニ非ス但射利ヲ旨趣トセサルモノニ限ル

第九條　商人トハ總テ商業ヲ営ム者ヲ謂ヒ商業ヲ営ムトハ常業トシテ商ト取取引ヲ為スヿヲ云フ

農作、牧畜及ヒ捕漁ノ業ヲ営ムハ商業ヲ営ムト看做サス

第十條　契約ニ因リ独立シテ義務ヲ負フヿヲ得ル各人ハ一時ノ商ト取引ナルト常時ノ商業ナルトヲ問ハス總テ商トヲ為スヿヲ得

獨立シテ義務ヲ負フヿヲ得サル者ト雖ヒ後見人ヲ為スヿヲ得但後見人ハ商業登記簿ニ其登記ヲ受クル可シ

第拾壱条　男女ヲ問ハス未成年者ニシテ年齢拾八歳ニ満チ且父又ハ後見人ノ承諾ヲ得テ獨立ノ生計ヲ立ツル者ハ商ヒヲ為スヿヲ得

前項ノ未成年者自己ノ為ノ商ヒヲ為サントス欲スル日ハ法律上ノ要件ヲ明記シ且自己及ヒ父又ハ後見人ノ署名捺印シタル陳述書ヲ管轄裁判所ニ差出シ登記ヲ受クル可シ然ル時ハ其登記ノ日ヨリ商事ニ於テ總テノ權利及ヒ義務ニ関シ成年者ト全ク同一ナルモノトス

而格二条　婦ノ其夫ノ明示又ハ默示ノ承諾ヲ
得テ商ヒヲ為スヘキヲ得此承諾ハ其婦法律上
夫ト別居シ又ハ夫ニ遺棄セラレ又ハ夫ヲ
必要ノ給養ヲ受ケサルトキハ之ヲ得ルヿヲ要
セス
婦カ其夫ノ商業ヲ助クルノミニテハ之ヲ商
人ト看做サス
第格条　商ヒヲ為スヿヲ得ル婦ハ商事ニ於
テノ獨立人ノ總テノ權利ヲ得義務ヲ負フ
婦ハ商ヒノ債務ニ付テハ婦ノ財産ニ対シ夫
ニ屬スル管理權又ハ其他ノ權利アルニ拘ハ
ラス自己ノ全財産ヲ以テ其責任ヲ負フ但夫

ノ承諾ヲ得テ商ヒヲ為ス場合ニ於テ夫婦間
ニ財産共通ノ存スルトキハ共通財産モ亦其責
任ヲ負フ
第格四条　配偶者ノ一方カ商業ヲ為ス又婦間
ニ財産共通ヲ為サヽルトキハ又ハ之シヲ解キタ
ルトキハ商業登記簿ニ登記ヲ受クヘキ為メ其事
実ヲ管轄裁判所ニ届出ツヘキヲ要ス
配偶者ノ間ニ在テハ商事會社ハ成立スヘキ
ヲ得ス
第十五條　法律上禁セラレタル總テノ商ヒ取
引又ハ法律上特ニ規定セラレタル別段ノ資
格ヲ有セサル者ノ為シタル總テノ商ヒ取引

ハ無効ヨリ

公務ヲ帯フル者商業ヲ營ムヿヲ禁セラレタル場合ト雖モ其者ノ為シタル取引ハ此理由ノ為ノ無効ト為ルヿ無シ

第十六條　一方ノ者ノミニ對シテ商ト取引ヲ心取引ニ付テハ此法律ノ規定ヲ雙方ニ適用ス但此法律中商人ノ身分ニ関スル規定及ヒ反對ノ意ヲ表シタル規定ハ此限ニアラス

第十七條　會社及ヒ其他無形人カ商業ヲ營ハハハ亦商業ニ付キ設ケタル規定ヲ遵守スルヿヲ要ス

第二章　商業登記簿

第十八條　商號、後見人、未成年者、婚姻契約、代務及ヒ會社ニ関スル商業登記簿ハ当事者ノ營業所又ハ住所ノ区裁判所ニ之ヲ備ヘ登記及ヒ之ニ関スル事務ハ其裁判所之ヲ行フ

前項ノ營業所又ハ住所ヲ他ニ移シタルトキハ既ニ登記シタル事実カ尚ホ存スル場合ニ限リ移轉地ニ於テモ亦更ニ其登記ヲ受クヘシ

第十九條　登記ハ其度毎ニ裁判所ヨリ其地ニ於テ發行スル新聞紙ヲ以テ速カニ之ヲ公告スヘシ其新聞紙ハ豫メ一暦年間之ヲ定メ置クヿヲ要ス又各人ニ商業登記簿ノ縦覧ヲ許シ且手數料ヲ納ムル者ニ認証シタル謄本

ヲ請フイヲ許ス

登記及ヒ公告ヲ受クル毎ニ手数料ヲ納メシム其額ハ勅令ヲ以テ一定スルコトヲ定ム

第二十条　登記ヲ受ケントスル者ハ当事者ノ署名捺印シタル陳述書ヲ以テ自己又ハ委任ヲ受ケタル代理人ヨリ届出ツルヲ要ス

其登記ハ即日又ハ翌日中ニ登記ヲ為ス

第二十一条　若シ裁判所ニ於テ登記ヲ拒ミタルトキハ当事者ヨリ其命令ニ対シ抗告ヲ為スヲ得

登記ノ変更又ハ取消ニ付テモ亦タ前項ニ同シ

第二十二条　登記シタル事項ハ公ニシテ且裁判所ノ認知シタルモノトス何人ト雖モ毫モ已シノ過失ニ非サルヲ証シ得ルニ非サレハ之シヲ知ラサリシテ已シヲ保護スルヲ得ス然シテ其事項ハ他ノ方法ニ因リ之シヲ知得タル者ニ対シテハ登記ノ前後ヲ問ハス其効力ヲ致サシム但権利関係カ登記ニ因リ始テ生スヘキ例外ノ場合ハ其場所ニ於テ之シヲ定ム

第三章　商號

第二十三条　各商人ハ商号ヲ有シ總テ商業上ニ於テ自己ヲ表示スル為ノ之ヲ用ユ若シ一人

こしテ資本ヲ分チ数箇ノ営業ヲ為ストキハ其各営業ニ付キ各別ノ商号ヲ有スルヿヲ要ス

第二十四条　商号ノ新設変更又ハ廃止ハ之ヲ商業登記簿ニ登記ス支店アルトキハ其支店ニ付テモ亦此手続ヲ為ス

第廿五条　商号ハ従来屋号ト称スルモノヲハテスルヲ通例トスルモ亦営業者ノ氏又ハ氏名ヲ以テスルヲ妨ケシ

会社ノ商号登記ニ因リ同一営業ニ付キ一地域内ニ於テ其専有ノ権利ヲ得取ス

第廿六條　相続ニ因テ商業ヲ引受クル者又ハ契約ニ因テ商業ト共ニ商号ヲ引受クル者ハ

第廿七条ニ規定シタル場合ヲ除クノ外従前ノ商号ヲ続用スルヿヲ得

第廿七条　商号ハ其営業ト共ニスルニ非ラサレハ他人ニ譲渡スヿヲ得ス

第廿八条　営業ト商号トヲ併セテ譲渡ストキハ其商号ヲ続用スルトヲ之ヲ変更スルトヲ問ハス取引ノ仕残債務得意先及商業帳簿モ共ニ譲渡スモノト看做ス但特約アルトキハ此限ニ在ラス

商号引受ノ通知又ハ公告ノ中ニ特約ヲ明掲セサルトキハ其特約ハ第三者ニ対シテ無効タリ

第廿九条　営業ト商号トヲ併セテ譲渡スル者更

ニ其営業ヲ為サヽルノ責務ヲ負擔シタルトキハ
其責務ノ履行ハ爾後十ケ年間其一地域内ニ
限ル

第三十条　第廿八条及ヒ第廿九条ニ記載シタル
責務ニ背ク者アルトキハ被害者ハ其加害所為
ノ停止及損害賠償ヲ要求スルヿヲ得

第四章　商業帳簿

第卅一条　各商人ハ其営業部類ノ慣例ニ従ヒ
完全ナル商業帳簿ヲ備フル責有リ殊ニ帳簿
ニ日々其取扱ヒタル取引他人トノ間ニ成立
ケタル自己ノ権利義務受取リ又ハ引渡シタル
ル商品支拂ヒ又ハ受取リタル金額ヲ整備且

那勝ニ記入シ又月々其家事費用及ヒ商業費
用ノ總額記入ス
小壹ノ取引ハ現金壹ト掛壹トヲ問ハス逐一
之ヲ記入スルヿヲ要セス日々ノ壹上總額ノ
ミヲ記入ス

第卅二条　各商人ハ開業ノ時及ヒ午後毎年初
ノ三ケ月内ニ又合資会社及株式会社ハ開業
ノ時及ヒ毎事業年度ノ終ニ於テ不動産動産
ノ總目録及ヒ貸方借方ノ對照表ヲ作リ特ニ
設ケタル帳簿ニ記入シテ署名スヘシ責アリ
動産目録及貸借對照表ヲ作ルニハ總テノ商
品債権及ヒ其他總テノ動産ニ当時ノ相場又

ハ市場價格ヲ附スル辯償ヲ得ンノ確ナラサル
債權ニ付テハ其推知シ得ヘキ損失額ヲ加除
シテ之ヲ記載シ又到底損失ニ帰スヘキ債權
ハ全リ之ヲ記載セス

第三十三条　毎年ヶ年又ハ毎半ヶ年内ニ利息
又ハ配当金ヲ社員ニ分配スル會社ハ毎半ヶ
年ニ前條記載ノ責ヲ尽スヘシ

第三十四条　各商人ハ十ヶ年間商業帳簿ヲ貯藏
シ火災又ハ其他ノ意外ノ事変ニ因テ喪失又
ハ毀損セサルヿニ注意スルノ責アリ

第三十五条　商人ノ商業帳簿ハ其一身ノ所有物
ハシテ破産又ハ會社清算ノ場合ヲ除クノ外
官權ヲ以テ之ヲ交付セシムルヿヲ得ス

第三十六條　然レトモ相続ニ関スル事件共通ニ関シ
派分ニ関スル事件及ヒ業務取扱ニ関スル争
訟ニ付テハ裁判所ノ命令ニ應シ検閲ノ為ノ
總テノ商業帳簿ヲ差出サヽルヿヲ得ス

第三十七条　争訟中原告又ハ被告ノ申立アルトキ
ハ受訴裁判所ハ相手方ノ商業帳簿ノ開示ヲ
命シ其所有者ノ面前ニ於テ右事件ニ関
スル記入ノ検閲又ハ謄写ヲ為
サシム若シ其帳簿カ他ノ地ニ在ルトキハ右裁
判所ハ其地ニ就キ又ハ其地ノ裁判所ニ嘱託
シテ検閲又ハ謄写ヲ為サシム

第卅八條　何人ニテモ商業帳簿又ハ其中ノ一ヲ開示スヘキ裁判所ノ命令ニ従ハサル者ハ之レヲ以テ訴訟ヲ不利ト為ハ推定ヲ受ク但其開示セサルハ自己ノ過失ニ非サルヲ訴ヒ又ハ疏明シ得ルトキハ此限ニ在ラス

第三十九条　商業帳簿ノ記入ノ証據カハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之レヲ判決スヘシ其記入ノミヲ以テ訴人者ノ利益ニ為シ可キ旨ノ証ト為スヲ得ス但相手方ニ於テモ其証入ヲ援用シタルトキハ又ハ相手方カ商人ニシテ自己ノ帳簿ニ於テハ又對ノ記入ヲ以テ之ニ對抗シ能ハサルトキハ又ハ相手方ニ於テ其不正ナルヲ少シニテモ信認セシメ得サルトキハ此限ニ在ラス

相手方其記入ヲ援用シタル場合ニ於テ之レト連絡セル記入アルトキハ亦同シ

第四十條　原告被告双方ノ商業帳簿ノ記入相牴觸シテ解明シ能ハサルトキニ於テモ亦裁判所ハ事情ヲ斟酌シテ其証據物ヲ全ク擯棄スルト否ナルト又ハ一方ノ帳簿ニ一倍ノ信用ヲ置クト否トヲ又ハ一方ニ宣誓ヲ以テ帳簿記載ノ事項ヲ確保セシムルトヲ許スト否トヲ判決ス

第四十一条　商業帳簿ハ充分ノ証ト為ラサル
總テノ場合ニ於テハ宣誓ヲ以テ又ハ裁判所
カ事情ヲ斟酌シテ定ム可キ他ノ証據ヲ以テ
之レヲ補充スルヲ得

第五章　代務人及ヒ商業使用人

第四十二條　何人ニテモ商業ヲ営ム者ハ本店
又ハ支店ニ明示ノ委任ヲ以テ一人又ハ数人
ノ代務人ヲ置クヲ得但其委任ハ別ニ定式
ヲ要セス
代務ノ委任及ヒ其解任ハ商業登記簿ニ其登
記ヲ受ク可シ

第四十三條　代務ハ何時ニテモ之ヲ廃罷シ又
ハ代務人ヨリ之ヲ辞スルヲ得又其委任時
期ノ満了ニ因リ又ハ代務人ト取結ヒタル雇
傭契約ノ絶止ニ因リ又ハ其委任ヲ為シタル
営業ノ売却若クハ廃止ニ因テ自ラ消滅ス然
レトモ商業主人ノ死亡ニ因テハ消滅セス
代務人其委任ノ終リタル後ニ為シタル取引
ハ代務人其終リタルヲ知ラサルトキニ限リ
有効タリ

第四十四條　数人共同ニ委任ヲ受ケタル代務
ハ總員共同ニ非サレハ之ヲ行フヲ得又代
務ハ其一人ニ付テ消滅シタルトキハ他ノ各
人ニ付テモ亦消滅ス

第四十五條　代務ノ委任ニハ商業主人ノ商号ヲ用ヰ且之ニ代リ裁判上ト裁判外トヲ問ハス其商業ニ関スル總テノ商ヒ取引及ヒ權利行為ヲ為シ得ル權力ノ授与ヲ包含ス

代務權ニ制限ヲ立ツルヿヲ其制限ハ第三者ニ對シテ法律上無効タルヿヲ但第三者其制限アルヿヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

第四十六條　代務ハ無期ニテモ又或ル時期ニ達シ若クハ或ル事件ノ生スル限リトシテモ又有期ニテモ之ヲ委任スルヿヲ得但廢罷及ヒ辞任ノ権利ハ此カ為メニ妨ケラルヿヲ無シ

第四十七條　代務人代務權ノ全部若シクハ一分ヲ他人ニ轉付スルヿヲ得又但商業使用人ヲ置クノ権アリ

第四十八条　商業主人ハ代務人カ其主人ノ営業上ニ於テ為シタル取引及ヒ行為ニ因リ特リ直接ニ權利ヲ得義務ヲ負フ但主人ノ之ヲ承諾シタルト否トヲ又ハ主人ノ名ヲ以テ為シタルト否トヲ問フヿ無シ又代務人カ其主人ノ営業上ニ於テ為シタル不法ノ行為又ハ代務人カ自己ノ為ヲ以テ取結ヒタル取引ト雖モ其時ノ情況及ヒ相手方ノ意思ニ因リ主人ノ計算ヲ以テ為シタリトスル可キモノニ付テハ亦

同じ

第四十九条　何人ニテモ代務委任ヲ（商称ヲ又ハ代務委任ヲ）踰越シテ取引ヲ取結ヒタル者ハ相手方ニ對シ其擇ニ從ヒ取引履行又ハ損害賠償ノ責任ヲ自己ニ負フ其代務委任踰越ノ場合ニ於テ第四十五条第二項ニ從ヒ商業主人其義務ヲ負フ可キハ主人モ亦タ之カ責ニ任セサルヿヲ得ス然レトモ此場合ニ於テハ主人又ハ代務人ノ中一方ノミニ對シテ其取引ノ効用ヲ致カシムルヿヲ得

相手方ニ於テ代務委任人欠缺ヲ知テ為シタル取引ハ双方双方ニ在テ無効タリ

第五拾条　代務人ハ自己ノ計量ニテモ又第三者ノ計量ニテモ商ヒヲ為スヲ得ス若シ此規ニ背キタル第六拾条ニ定メタル結果ノ外商業主人ノ求メニ從ヒ其商ヒ取引ヲ主人ノ計量ニ移シ且損害アラハ之ヲ賠償スルヿヲ要ス

第五拾条　何人ニテモ商業上ノ商業主人ノ業務ヲ輔センヿヲ為メニ商業使用人トシテ置カレタル者ハ特別ノ責任ヲ負ヒスト雖モ通常其權内ニ属スル可キ總テノ取引及ヒ行為ヲ主人ノ為メニ充分ノ効力ヲ以テ為スヿヲ得使用人カ営業ノ全部若シクハ

一分ノ為ニ置カレタル者トスル或種ノ
取引若クハ一箇ノ取引ノ為ニ置カレタル者
トヲ問ハス其取引及ヒ行為ニ因リ主人独リ
権利ヲ得義務ヲ負フ
使用人カ主人ノ為ニ訴訟ヲ為シ又ハ裁判
所ニ出ツル或ハ行為ヲ為スハ特別ノ委任ヲ受
ケタルトキニ限ル
使用人署名スルトキハ主人ノ代理タル旨ヲ書
添フルヲ要ス
第五十二條　商業主人ノ為ニ店舗倉庫帳場
及ヒ其他ノ営業場ニ於テ或ル業務ヲ弁スル
者又ハ他所ニ送達セラルヘキ者又ハ帳場ニ
於テ第三者ト取引ヲ為スニ際シ主人ヨリ
制止セラレス若シクハ第三者ノ問ヲ受ケテ
已レリトヲ為スノ権アリト答ヘタルトキハ強
テ其職分ノ範囲ニ付キ置カレタルモノト看
做サル
第五十三條　商業使用人ヲ商業主人ノ代人ト
シテ之ヲ取引ヲ為シタル第三者カ善意ナ
ルニ於テハ使用人其受ケタル委任ニ依ラサル
モ又指定セラレタル方法ニ依ラサルモ其
取引ハ第三者ニ對シテハ有効ナリ
第五十四條　商業主人カ商業使用人ヲシテ商
ヒ慣習ニ定マレル職分ノ範囲ヲ擴メテ其代

理ヲ為サシメントスル時ハ代理人ヲ為シ且相手ノ方法ヲ以テ之レヲ第三者ニ告知スルヿヲ要ス殊ニ商業帳信書又ハ為替証券及其他ノ債務証書ニ於テハ使用人ノ署名カ主人ヲ羈束スル可キヿハ右ノ規定ヲ遵守スルヿヲ要ス

第五十五條　営業場ニ於テ第三者カ善意ヲ以テ商業使用ニ対シ金銭ノ受渡ヲ為シタルトキハ何レノ場合ヲ問ハス商業主人之ヲ義認スル ノ義務アリ商品、証券及ヒ其他ノ有價物ニ付テモ亦同シ

受取ノ證アル勘定書及ヒ其他ノ受取證書ヲ持来スル者ハ押金及其他書中記載ノ物ヲ受取ルノ権アルモノト看做サル但情況ニ因リ右ニ異ナシル推定ヲ為スヿヲ可キトキハ此限ニ在ラス

第五十六條　商業使用人ハ其職分上ノ権ヲ他人ニ轉付スルヿヲ得ス又商業主人ノ兼諾ヲ得ルニ非サレハ他人ヲ代理トシテ其権ノ全部若クハ一分ヲ行ハシムルヿヲ得ス但商ヒ慣習ニ於テ之ヲ許スモノハ此限ニ在ラス

第五十七條　第四十五條第二項第四十八條第四十九條及ヒ五十條ノ規定カ商業使用人ニテモ亦之レヲ適用ス

第五十八條　商業主人ト商業使用人トノ間ノ
權利關係ニシテ其雇傭ニ關スルモノハ此法
律ニ規定シタルモノヲ除クノ外雇傭契約ノ
原則ニ從ヒ之ヲ定ム

第五十九條　期限ヲ定メスシテ又ハ商業主人若シ
クハ商業使用人ノ終身ヲ期シテ取結ヒタル
雇傭契約ハ双方何時ニテモ之ヲ解クノ豫
告ヲ為スヲ得但其豫告ハ一ヶ月前ニ之ヲ
為スヲ要ス

第六十條　期限ヲ定メテ取結ヒタル雇傭契約
ハ双方ノ承諾アルニ非サレハ其期間滿了
ノ前ニ之ヲ解クヲ得ス但法律ニ因リ其
期限前ニ辭任又ハ解任ヲ為シ得ヘキ場合ハ
此限ニ在ラス

雇傭期限中ハ商業主人ニ於テ商業使用人ヲ
全ク使役セス又ハ僅ニ使役スト雖モ使用人
ハ契約上ノ給料又ハ各地慣習ノ給料ヲ受ク
ルノ權利アリ

第六十一條　商業使用人カ雇傭期限中疾病ニ
罹リ又ハ其他ノ事故ニ因リ二ヶ月以上業務
ニ就クニ耐ヘサル時ハ之ヲ解任スルヿヲ得
但一ヶ年以上雇使セラレタル者ハ其業務ニ
就カカルニヶ月間ノ給料ヲ請求スルノ權利
アリ

第六十二条　商業使用人カ就業中疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ被ムルモ商業主人ノ過失ニ因ラサルトキハ主人ヨリ治療費ヲ給シ又ハ償金ヲ與フルノ義務ナシ

第六十三条　商業使用人ヲ何時ニテモ解任シ得ヘキ場合左ノ如シ

第一　不実ノ行為シ又ハ已ニ受ケタル信任ニ背キタルトキ

第二　自己ノ計算又ハ第三者ノ計算ニテ取引ヲ為シタルトキ但些少ノ取引ハ此限リニ在ラス

第三　正当ノ理由ナクシテ其金セラシタル仕事ヲ為スヲ拒ミ又ハ之ヲ怠リタルトキ

第四　不当ノ挙動又ハ不品行ノ為メニ指斥ヲ受ケタルトキ

第六十四條　商業主人カ商業使用人ニ相当ノ給料ヲ与ヘス又ハ之ニ違法若クハ不善ノ業務ヲ命シ又ハ其身体ノ安全、健康若シクハ名誉ヲ害シ若クハ害セントスル取扱ヲ為ストキハ使用人ハ何時ニテモ辞職スルヿヲ得

第六十五条　雇傭契約ト商業主人ノ死亡ニ因テ終ラス然レトモ商業使用人ノ雇入シテタル其営業ノ廃止ニ因テ終ハ但其営業ヲ他人ニ移サントスルトキハ第五十九条ニ従ヒ双方

豫告ノ權利ヲ有ス

第六章 商事會社及ヒ共算商業組合

商事會社總則

第六十六條 商事會社ハ共同シテ商業ヲ營ム為メニノミ之ヲ設立スルヿヲ得

第六十七条 法ニ背キ又ハ禁止セラレタル事業ヲ目的トスル會社ハ初ヨリ無効タリ

會社若シ公安又ハ風俗ヲ害スヘキ言業ヲ為スヿハ地方裁判所ハ他ノ官廳ノ申立ニ因リ又ハ職權ニ依リ其命令ヲ以テ之ヲ解散セシムルヿヲ得但シ其命令ニ對シ抗告ヲ為スヿヲ得

第六十八條 法律命令ニ依リ官廳ノ許可ヲ受クヘキ言業ヲ為サントスル會社ハ其許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設立スルヿヲ得ス

株式会社ニ關シテハ第三節ノ規定ヲ遵守スルヿヲ要ス

第六十九條 會社ハ商号ヲ登記及公告ヲ受クルニ非サレハ第三者ニ對シ會社タルノ効ナシ

第七十条 會社ハ商号ヲ設ケ社印ヲ製シ言業所ヲ定ムルヿヲ要ス其商号ニハ第二十五条第二項ノ規定ニ従フ

第七拾條 社印ニハ商號ヲ刻シ其下鑑ヲ商

業登記簿ニ添ヘテ保存スル為メ之ヲ第十八條ニ掲ケタル裁判所ニ差出スヲ要ス社名ヲ変更シ又ハ改刻スル時モ亦此手續ヲ為マ

第七拾四條　商號及ヒ社印ハ官廳ニ届ケタル文書又ハ報告書ハ株券為替證券及ヒ會社ニ於テ権利ヲ得義務ヲ負フ可キ一切ノ書類ニ之ヲ用ユ

第七拾三條　會社ハ特立ノ財産ヲ所有シ又獨立シテ権利ヲ得義務ヲ負フ殊ニ其名ヲ以テ債権ヲ得債務ヲ負ヒ動産及ヒ動産ヲ得取ニ又訴訟ニ付キ原告又ハ被告ト為ルヲ得

第壹百七拾八條　合名會社

第一款　會社ノ設

第七十四条　二人以上七人以下共通ニ計算ヲ以テ商業ヲ営ム為メ金銭又ハ有價物又ハ労力ヲ出資ト為シテ共通資本ヲ組成シ責任其出資ニ止ツヲサル モノヲ合名會社ト為ス

第七十五条　商号ニハ總社員又ハ其一人若クハ数人ノ氏ヲ用ヰ之ニ會社ナル文字ヲ附ス可シ

會社若シ現存セル他人ノ営業ヲ引受クルトキハ其旧商号ヲ続用スルヲ得ス

第七十六条　社員ノ退社シタル後ト雖モ従前ノ商号ヲ続用スルヲ得但退社員ノ氏ヲ商

号中ニ續用セントスルトキハ本人ノ承諾ヲ受
クルヿヲ要ス

第七十七条　會社ハ書面契約ニ因テノミ之ヲ
設立スルヿヲ得其契約書ハ總社員之ニ連署
シ各自一通ヲ所持ス
右ノ規定ハ會社契約ノ変更ニ於テモ亦之ヲ
遵守ス

第七十八条　會社ハ設立後十四日内ニ本店及
支店ノ地ニ於テ其登記ヲ受クヘシ

第七十九条　登記及ヒ公告スヘキ事項左ノ如
シ

第一　合名會社ナルヿ

第二　會社ノ目的
第三　會社ノ商号及ヒ営業所
第四　各社員ノ氏名住所
第五　設立ノ日附
第六　存立時期ヲ定メタルトキハ其時期
第七　業務擔当社員ヲ特ニ定メタルトキハ其
氏名

第八十条　前條ニ掲ケタル一箇又ハ数箇ノ事
項ニ変更ヲ生シ又ハ合意ヲ以テ変更ヲ為シ
タルトキハ七日内ニ其登記ヲ受クヘシ

第八十一条　會社ハ登記前ニ開業スルヿヲ得
ス之ニ違フトキハ地方裁判所ノ命令ヲ以テ其

営業ヲ差止ム但其命令ニ對シ抗告ヲ為スヿヲ得

第八十二条　會社其登記ノ日ヨリ六ヶ月内ニ開業セサルトキハ其登記及公告ハ無効タリ

第八十三条第二款　会社契約ノ変更

第八十三条　會社契約ハ總社員ノ義諾アルニ非サレハ之ヲ変更スルヿヲ得ス但其義諾ナキトキハ契約ノ従前ノ規定ニ従フ

第八十四条　會社契約ノ規定ニシテ會社ノ施行セサリシモノハ社員又ハ第三者ニ對シ其効用ヲ致サシムルヿヲ得ス

第三款　社員間ノ權利義務

第八十五条　社員間ノ權利義務ハ此法律及ヒ會社契約ニ因テ定マルモノトス

第八十六条　會社ノ目的ニ及セサルモノニ属ナル業務及ヒ事項ニ付テハ業務擔当ノ任アル總社員ノ義諾ヲ要ス

第八十七条　會社契約ノ規定ノ施行ニ関スル事項ハ業務擔当ノ任アル社員ノ多数ヲ以テ之ヲ決ス

第八十八条　會社ノ業務ヲ行ヒ及ヒ其利益ヲ保衛スルニ付テハ各社員同オノ權利ヲ有シ義務ヲ負フ但會社契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第八十九条　社員ノ議決權ハ其出資ノ額ニ應ジテ各一ツヲ立ツルヿヲ得ス

第九十条　業務擔当ノ任ナキ社員ハ何時ニテモ業務ノ実況ヲ監視シ會社ノ帳簿及ヒ書類ヲ調査シ且此事ニ関シ意見ヲ述フルヿヲ得

第九十一条　業務擔当ノ任アル各社員ハ代務ノ委任又ハ廢罷ヲ為スノ權利アリ

第九十二条　各社員ハ會社ニ對シ正整ナル商人ノ事務ニ於テ為スト同トキ勉励注意ヲ為スノ責務アリ其責務ニ背キ會社ニ損害ヲ生セシメタルトキハ之ヲ賠償スルヿヲ要ス

第九十三條　社員タル者入シタル金或又ハ有價物ノ出資ハ契約ニ定メタル評價額ヲ附シテ會社ノ財産目録ニ記入シ會社ノ所有ニ帰ス

第九十四条　社員其負擔シタル出資ヲ差入ルヿヲ能ハサルトキハ除名セラレタルモノト看做ス但總社員ノ承諾ヲ得テ他ノ出資ヲ差入ハ此限ニ在ラス

第九十五条　社員其負擔シタル出資ヲ差入シサルトキハ會社ハ之ヲ除名スルト年百分ノ七ノ利息ヲ払ハシムルトヲ択ミ其欠シノ場合ニ於テハ損害賠償ヲ求ムルヿヲ得

第九十六条　社員ハ契約上ノ額外ニ出資ヲ増シ又ハ損失ニ因テ減シタル出資ヲ補充スル

スルノ義務ナシ

第九十七条　社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非ラサレハ其出資又ハ會社財産中ノ持分ヲ減スルヿヲ得ス

第九十八条　社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非ラサレハ第三者ヲ入社セシメ又ハ第三者ヲシテ己レノ地位ニ代ハラシムルヿヲ得又然レトモ社員ノ相續人又ハ承継人ハ契約ニ於テ反對ヲ明示セサルトキハ其ニ社員ノ地位ニ代ハルヿヲ得但總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ業務ヲ擔当スルノ権利ナシ

第九十九條　社員ヨリ他人ニ為シタル持分ノ讓渡ハ會社及ヒ第三者ニ對シ其効ナシ

第百条　社員其持分ヲ他人ヲ加入セシムルハ其関係ハ共業商業組合ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第百一条　社員カ會社ニ消費貸ヲ為シ又ハ會社ノ為メニ立替金ヲ為シタルトキハ年百分ノ七ノ利息ヲ求ムルヿヲ得又社員カ業務施行ノ為メ直接ニ受ケタル損失ニ付テハ其補償ヲ求ムルヿ得

第百二条　會社契約ニ於テ明示ノ合意ナキトキハ社員ハ業務施行ノ勤勞ニ付キ其報酬ヲ求ムルヿヲ得ス然レトモ勞力ヲ出資ト為シタル

社員其負擔シタル出資外ニ為シタル労力ニ
付テハ相当ノ報酬ヲ求ムルヲ得

第百三条　社員カ會社ノ為メニ受取リタル金
銭ヲ相当ノ時日内ニ會社ニ引渡サス又ハ會
社ノ金銭ヲ自己ノ用ニ供シタルトキハ會社ニ
対シ年百分ノ七ノ利息ヲ拂ヒ且如何ナル損
害ニモ賠償スルノ義務アリ

第百四条　社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非ラ
サレハ自己ノ計算ニテモ又第三者ノ計算ニ
テモ會社ノ商ト部類ニ属スル取引ヲ為シ又
ハ之ニ参加スルヲ得ス之ニ背キタルトキハ會
社ハ其撰ニ従ヒ其社員ヲ除名シ又ハ其引取

ヲ會社ニ引受ケ商ホ其執ヒノ場合ニ於テモ
損害賠償ヲ求ムルヲ得

第百五条　各社員ノ會社ノ損益ヲ共分スル割
合ハ契約ニ於テ他ノ準率ヲ定メサルトキハ其
出資ノ價額ニ準ス

出資ト為シタル労力ノ價額ヲ契約ニ於テ定
メサルトキ各般ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第百六条　社員カ業務擔当ノ任ナリシテ業務
擔当ノ所為ヲ為シ又ハ會社ニ對シテ詐偽ヲ
行ヒ又ハ其他會社ニ對シテ主要ノ責務ヲ甚
シタ欠キタルトキハ會社ハ之ヲ除名シ且損害
賠償ヲ求ムルヲ得

第百七条　社員カ會社契約ニ因リ又ハ此法律ノ規定ニ依リ會社ノ為メニ為シタル總テノ行為及ヒ取引ハ各社員互ニ之ヲ承認スル義務アリ

第四款　第三者ニ對スル社員ノ権利義務

第百八条　會社ハ業務擔当ノ任アル社員ノ明示シテ會社ノ為メニ為シ又ハ事実會社ノ為メニ為シタル總テノ行為ニ因リ直接ニ権利ヲ得義務ヲ負フ

第百九條　會社ノ權利擔当ノ任アル社員裁判上ト裁判外トヲ問ハス之ヲ主張シ又ハ有効ニ之シヲ処分スルヿヲ得

第百十条　第三者ニ對スル會社ノ義務ハ第三者ヨリ業務擔当ノ任アル各社員ニ對シ其履行ヲ求ムルヿヲ得

第百十一条　業務擔当ノ任アル社員ノ代理権ニ加ヘタル制限ハ第三者ニ對シテ其効ナシ

第百十二条　會社ノ義務ニ付テハ先ツ會社財産之ヲ負擔シ次ニ之ヲ負擔シ次ニ各社員其財産ヲ以テ不分ニテ之ヲ負擔ス

第百十三条　社員ニ非スシテ商号ニ其氏ヲ表スルヿヲ承諾シ若シクハ之ヲ表スルニ任セシ又ハ會社ノ業務ノ施行ニ参カリ又ハ事実社

員タルノ権利義務ヲ有スル者ハ社員ト仝ク
連帯無限ノ責任ヲ負フ
第百十四條　商業使用人又ハ代務人ハ其給料
ノ全部又ハ一分ヲ一定又ハ不定ノ利益配当
ニ因テ受クルモノトキハ前条ノ者ト同視セ
ス
第百十五条　新ニ入社スル社員ハ契約上他ノ
定ナキトキハ其入社前ニ生シタル會社ノ義務
ニ付テモ責任ヲ負フ
第百十六条　會社財産ニ属スル物ハ社員ノ債
権者其債権ノ為メ之ヲ請求スルヿヲ得ス但
差入前ニ於テ其物ニ付キ第三者ノ為メ権利
ノ設定セラレタルトキハ限ニ在ラス
第百十七条　社員ノ債権者ハ社員自ラ要求シ
得ヘキ利息又ハ配当金ノミヲ會社ニ對シテ
要求スルヿヲ得
然レトモ社員ノ持分ハ社員ノ退社又ハ會社解
散ノ場合ニ非サレハ之ヲ要求スルヿヲ得ス
第百十八条　會社ニ對スル債務ハ社員ニ對ス
ル債権ト又會社ニ對スル債務トノ相殺ハ會
社財産ノ分割前ニ在テハ之ヲ為スヿヲ得ス
第百十九条　社員ノ持分ヲ減シタル為メ會社
ノ債権者カ其會社財産ヨリ得ヘキ弁償ヲ減
損セラレ又ハ支障セラレタルトキハ減少ノ時

ヨリ一ケ年内ニ在テハ其減少ニ對シ異議ヲ
述フルヲ得

第五款　社員ノ退社

第百廿條　社員ハ會社契約カ有期ナルトキハ總
社員ノ承諾ヲ要シ無期又ハ終身ナルトキハ其
承諾ヲ要セスシテ任意ニ退社スルヲ得
其退社ハ六ケ月前ニ豫告ヲ為シタル上事業
年度ノ末ニ限ル但急速ニ退社スヘキ重要
ノ事由アルトキハ此限ニ在ラス

第百廿一条　右ノ外社員ハ左ノ諸件ニ因テ退
社ス

第一　除名

第二　死亡但シ社員ノ地位ニ代ルヘキ相續
人又ハ承継人ナキ時ニ限ル

第三　破産

第四　能力ノ喪失但特約ナキトキニ限ル

第百廿二条　社員退社スル毎ニ會社ハ七日以
ニ其理由ヲ附シテ登記ヲ受クヘシ

第百廿三條　會社ハ退社員ノ為ヲ特ニ作リタ
ル貸借對照表ニ依リ退社ノ時ノ割合ヲ以テ
其持分ヲ退社員又ハ其相続人若クハ承継人
ニ拂渡スヘキヲ要ス
退社前ノ取引ニシテ未タ結了セサルモノハ
其結了ノ後之ヲ計算スルヲ得

第百廿四条　退社員ノ持分ノ價直ハ特約アルニ非サレハ其出資ノ何種類タルヲ問ハス金銭ノミヲ之ヲ拂渡ス

労力ノ出資又ハ其他退社ハ只ニ終止スル出資ノ報酬又ハ償還ニ付キ契約ニ於テ其額ヲ定メサルキハ各般ノ事情斟酌シテ之ヲ定ム

第百廿五条　退社員ハ退社前ニ係ル會社ノ義務ニ付テハ退社後二ケ年間仍ホ全財産ヲ以テ其責任ヲ負フ

第九十一条ノ場合ニ於テ第三者ヲシテ已レノ地位ニ代ハラシメタル者ニ付テモ亦タ前項ヲ適用ス

第六款　會社ノ解散

第百廿六条　會社ハ左ノ諸件ニ因テ散解ス

第一　會社存立時期ノ満了

第二　會社契約ニ定メタル解散事由ノ起発

第三　總社員ノ義議

第四　會社ノ破産

第五　裁判所ノ命令

第百廿七条　第六十七條ニ掲ケタル場合ノ外會社其目的ヲ達スルヲ能ハス又ハ會社ノ地位ヲ維持スルヲ能ハサルノ理由ヲ以テ一人又ハ数人ノ社員ヨリ會社ノ解散ヲ申立ツルトキハ地方裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ解散セシ

ムルヿヲ得

會社ノ地位ヲ維持スル能ハサル場合ニ於テ會社ノ解散ニ換ヘテ或社員ヲ除名スルヿヲ他ノ総社員ヨリ相当ノ理由ヲ以テ申立ツルトキハ地方裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ除名スルヿヲ得

前二項ニ掲ケタル裁判所ノ命令ニ對シテハ抗告ヲ為スヿヲ得

第百廿八条　第百廿六条ノ第一号第二号ニ記載シタル場合ニ於テハ總社員又ハ社員ノ一分ニテ會社ヲ保續スルヿヲ得但社員ノ一分ニテ保続シタルトキハ其會脱シタル社員ハ退社シタルモノト看做ス

第百廿九条　會社解散スルトキハ破産ノ場合ヲ除クノ外總社員ノ多数決ヲ以テ清算人一人又ハ数人ヲ任シ七日以内ニ解散ノ原由日附及ヒ清算人ノ氏名住所ノ登記ヲ受クヿ可シ

第百卅条　清算人ハ會社ノ現務ヲ結了シ會社ノ義務ヲ履行シ未収ノ債権ヲ行用シ現存ノ財産ヲ賣却又ハ清算人ハ清算ノ目的ヲ超エテ営業ヲ保続シ又ハ新ニ取引ヲ為スヿヲ得ス又清算人ハ裁判上會社ヲ代理シ且會社ノ為メ和解契約及ヒ仲裁契約ヲ為スヿヲ得

第百卅一条　清算人ノ権ハ社員之ヲ制限スル

ヿヲ得ス但重要ナル事由ニ基ク社員ノ申立ニ
因リ地方裁判所ノ命令ヲ以テスンニ非サ
レハ之ヲ廢罷スルヿヲ得ス但シ其命令ニ對
シ抗告ヲ為スヿヲ得
第百廿二条　清算人ハ委任事務ヲ履行シタル
後社員ニ計算ヲ報告シ第百十五条及ヒ第百廿
四条ノ規定ニ準シ會社財産ヲ社員ニ分配ス
又清算中ト雖モ自由ト為リタル財産ハ之ヲ
社員ニ分配スルヿヲ得
第百廿三条　社員ニ分配スヘキ物ハ會社ノ總
テノ義務ヲ清算濟スルニ要スル會社財産
ニ限ル

第百三十四条　解散シタル會社ノ商業帳簿及
ヒ其他ノ書類ハ社員第三十四条ノ規定ニ從
ヒ之ヲ処分ス
第百廿五条　會社ノ義務ニ對スル社員ノ無限
責任ハ其義務ニ付キ五ヶ年未満ノ時効ノ定
ナキトキニ限リ解散後五ヶ年ノ満了ニ因テ時
効成ル但債権者カ未タ分配セラレサル會社
財産ニ對シ請求ヲ為ストキハ此限ニ在ラス

第二節　合資會社

第百廿六条　社員ノ一人又ハ數人ニ對シ契約
上別段ノ定ナキトキハ社員ノ責任カ金銭又ハ
有價物ヲ以テスル出資ノミニ限ルモノヲ合

資會社ト為ス

合資會社ノ社員ノ數ハ之ヲ制限セス

第百廿七条　合資會社ハ此節ニ定メタル規定ノ外總テ合資名會社ノ規定ニ從フ

第百廿八条　合資會社ノ登記及ヒ公告ニハ第七十九条ノ第二号乃至第六号ニ列記シタルモノヽ外尚ホ左ノ事項ヲ掲クルヿヲ要ス

第一　合資會社ナル文字

第二　會社資本ノ總額

第三　各社員ノ出資額

第四　無限責任社員アルヤハ其氏名

第五　業務擔當社員又ハ取締役ノ氏名及ヒ其責任ノ有限又ハ無限ナルヿ

第百廿九条　商号ニハ社員ノ氏ヲ用ユルヿヲ得又但無限責任社員ノ氏ハ此限ニ在ラス又商号ニハ何シノ場合ニ於テモ合資會社ナル文字ヲ附スヘシ

若シ商号ニ社員ノ氏ヲ用ヰタルトキハ其社員ハ此カ為メ當然會社ノ義務ニ對シ無限ノ責任ヲ負フ

第百四十條　業務擔當ノ任アル社員及ヒ取締役ヲ除クノ外社員ハ自己ノ計算又ハ第三者ノ計算ニテ會社ノ商ヒ部類ニ屬スル取引ヲ為シ又ハ之ニ參カルヿヲ得

第百四十一條　各社員ハ契約上他ノ定ナキ
ハ同等ニ會社ヲ代理スルノ權利義務ヲ有
ス

第百四十二條　社員七人ヲ超ユル會社ニ在テ
ハ其契約ヲ以テ社員中より一人又ハ數人ノ
取締役ヲ任シ又設立後七人ヲ超ユルトキハ會
社ノ決議ヲ以テ之ヲ任ス但其決議ノ効力ハ
總社員四分ノ三以上ノ多數決ニ因テ生ス
數人ノ取締役ヲ任シタルトキハ各別ニ業務ヲ
取扱フヲ得ルモノトシ又ハ其總員若シ
ハ數人共同ニ非サレハ之ヲ取扱フヲ得サ
ルモノトスルヤヲ同時ニ定ム

取締役ハ何時ニテモ會社ノ決議ニ因テ解任
セラルヽヲ有ルヿヽ其議決ノ効力ハ亦總社
員四分ノ三以上ノ多數決ニ因テ生ス

第百四十三條　業務擔當ノ任アル社員又ハ取
締役ハ裁判上ト裁判外トヲ問ハス總テ會社
ノ事務ニ付キ會社ヲ代理スルノ專權ヲ有ス
然シテ會社契約又ハ會社ノ決議ニ因テ羈束
セラル

第百四十四條　業務擔當ノ任アル社員又ハ取
締役ノ代理權ハ加ヘタル制限ハ善意ヲ以テ
之ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對シ其効ナシ

第百四十五條　有權限責任社員ハ業務擔當ノ

任アル社員又ハ取締役ノ認可ヲ得テ其持分ヲ他人ニ譲渡スヿヲ得此場合ニ於テハ得取者ハ譲渡人ノ権利義務ヲ襲承ス

第百四十六条　會社契約ニ於テ又ハ第百四十二条ニ定メタル會社ノ決議ニ因リ業務擔当ノ任アル社員又ハ取締役ノ總員数人若シクハ一人カ其業務施行中ニ生シタル會社ノ義務ニ付キ無限ノ責任ヲ負フヘキ旨ヲ豫メ定ムルヿヲ得

第百四十七条　前條ニ掲ケタル無限ノ責任ハ業務擔当ノ任アル社員又ハ取締役ノ退任後二ヶ年ノ満了ニ因テ消滅ス

第百四十八条　業務擔当ノ任アル社員又ハ取締役、毎年少クトモ一回通常總會ヲ招集シ其他業務擔当ノ任アル社員又ハ取締役ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ總社員四分ノ一以上ノ申立アルトキハ臨時總會ヲ招集スヿヲ可シ

第百四十九条　總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ少クトモ七日前ニ各社員ニ會員ニ會議ノ目的ヲ通知シ及ヒ提出スヘキ書類ヲ送付スルヿヲ要ス

第百五十条　事業年度ノ終リタル後直ニ通常總會ヲ開キ其年度ノ貸借對照表及ヒ事業并ニ其成果ノ報告書ヲ社員ニ提出シテ調査及

ト認定ヲ受ケ其認定ハ出席社員ノ多数決ニ
依ル

第百五十一條　臨時総会ニ於テ議スヘキ事項ハ総社
員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス
然レトモ合名会社ニ在テ総社員ノ承諾ヲ要ス
可キ事項ハ総社員四分ノ三以上ノ多数ヲ以テ
之ヲ決ス此ノ場合ニ於テハ不同意ノ社員ハ
直チニ退社スルノ権利アリ

第百五十二條　前条ニ掲ケタル決議ニ要スル定
数社員出席セサルトキハ其総会ニ於テ仮ニ決
議ヲ為スヿヲ得此場合ニ於テ其決議ヲ総社
員ニ通知シテ再ヒ総会ヲ招集ス其通知ニハ

若シ第二ノ総会ニ於テ出席社員ノ多数ヲ以
テ第一ノ総会ノ決議ヲ認可シタルトキハ之ヲ
有効ト為スヿヲ旨ヲ明告スルヿヲ要ス

第百五十三條　利息又ハ配当金ハ会社資本額カ
損失因テ減シタル間ハ之ヲ社員ニ渡スヿ
ヲ得ス

第三節　株式会社

第一款　総則

第百五十四条　會社ノ資本ヲ株式ニ分ケ其義
務ト對シテハ會社財産ノミ責任ヲ負フモノ
ヲ株式會社ト為ス

第百五十五条　株式会社ハ其目的カ商業ヲ営

ムニ在ラサルモノモ亦タ之ヲ商事會社ト看
做ス
第百五十六條　株式會社ハ七人以上ヲ以テシ
且政府ノ免許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設立ス
ルヲ得ス
第二款　會社ノ發起及ヒ設立
第百五十七条　株式会社ハ四人以上ニ非サレ
ハ之ヲ發起スルヲ得ス
發起人ハ目論見書及ヒ假定款ヲ作リ各自之
ニ署名捺印ス
定款ハ此法律ノ規定ニ抵觸スルヲ得ス
第百五十八条　目論見書ニ記載ス可キ事項左
ノ如シ
第一　株式會社ナルヲ
第二　會社ノ目的
第三　會社ノ商号及ヒ營業所
第四　資本ノ總額株式ノ総数及ヒ一株ノ金
額
第五　資本使用ノ概要
第六　發起人ノ氏名、住所及ヒ發起人各自ノ
引受ケタル株數
第七　存立時期ヲ定メタルトキハ其時期
第百五十九條　發起人ハ會社ヲ設立スル可キ地ノ
地方長官ヲ經由シテ目論見書及ヒ假定款ヲ

ヲ主務者ニ差出シ発起ノ認可ヲ請フヿヲ要

第百六拾條　発起人ハ前條ノ認可ヲ得タル件ハ目論見書ヲ公告シテ株主ヲ募集スルヿヲ得其公告中ニハ法律ニ規定シタル発起ノ認可ヲ得タル旨及ビ其認可ノ日附ト各株式中ニ人ニ假定数ヲ展閲セシムル旨トヲ附記ス

第百六拾一條　株式ノ申込ヲ為スニハ申込人ハ其引受クル株数ヲ株式申込簿ニ記入シテ之ニ署名捺印ス

代人ヲ以テ申込ム時ハ委任者ノ氏名ニ代人其氏名ヲ附記シテ之ニ捺印ス

第百六拾二條　株式ノ申込ニ因リ申込人ハ會社設立スルニ至レハ定数ニ従ヒ各株式ニ付テノ拂込ヲ為スヿヲ義務ヲ負フ

第百六拾三條　總株式ノ申込アリタル後ハ発起人ハ創業總會ヲ開キ少ナクトモ總申込人ノ半数ニシテ總株金ノ半額以上ニ当ル申込人ノ承認ヲ経テ定数ヲ確定ス

第百六拾四條　創業總會ニ於テハ創業ノ為メ発起人ノ為ニタル契約及ヒ出費ノ認否ヲ議定シ又有價物ノ出資ヲ差入シテ株式ヲ受クルヿヲ得アルトキハ其價格ヲ議定ス

前項ノ議定ハ少ナクトモ總申込人ノ半数ニシテ

總株金ノ半額以上ニ當ル申込人出席シ其議
決權ノ過半數ニ因テ之ヲ為ス
第百六拾五条　其他創業總會ニ於テ取締役
及ヒ監査役ヲ選定ス
第百六十六条　創業總會ノ終リタル後発起人ハ
地方長官ヲ経由シテ主務省ニ會社設立ノ免許
ヲ請フ其申請書ニハ左ノ書類ヲ添フルヿシ
第一　目論見書及ヒ定款
第二　株式申込簿
第三　発起人ノ認可状
第百六十七条　會社設立ノ免許ヲ得タル時ハ発
起人其事務ヲ取締役ニ引渡スヿシ

取締役ハ速ヤカニ株主ヲシテ各株式ニ付キ少
ナクトモ四分一ノ金額ヲ會社ヲ掛込マシム
第百六十八条　會社ハ前條ニ掲ケタル金額掛
込ノ後十日以内ニ目論見書定款株式申込簿
及ヒ設立免許書ヲ添ヘテ登記ヲ受クルヿシ
登記及ヒ公告又可キ事項ハ左ノ如シ
第一　株主會社ナルヿ
第二　會社ノ目的
第三　會社ノ高及ヒ営業所
第四　資本ノ總額株式ノ總数及ヒ一株ノ金
額
第五　各株式ニ付キ掛込シタル金額

第六　取締役ノ氏名、住所

第七　存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

第八　設立免許ノ日附

第九　開業ノ日附

裁判所ハ會社ヨリ差出シタル書類ヲ登記簿ニ添ヘテ保存ス

第百六拾九条　會社ヲ設立ケタルトキハ其所在地ニ於テ亦登記ヲ受クベシ

第百七十条　設立ノ免許ヲ得タル後遅クトモ一ケ年以内ニ登記ヲ受ケザルトキハ其免許ハ効力ヲ失フ第八十三条ノ規定ハ株式會社ニモ亦之ヲ適用ス

第百七十一条　登記前ニ在リテハ創業總會ノ承認ヲ經タル義務及ビ出費ニ付テハ発起人取締役及ビ株主ニ於テ連帯無限ノ責任ヲ負フ

第百七十二条　創業總會ノ承認ヲ經ザル義務及ビ出費ニ付テハ発起人ニ於テ仍ホ連帯無限ノ責任ヲ負フ

第三款　會社ノ高等及ビ株主名簿

第百七十三条　高等ニハ株主ノ氏ヲ用ヰルヿヲ得又高等ニハ株式會社ナル文字ヲ附スベシ

第百七十四条　會社ハ株主名簿ヲ備ヘ之ニ左ノ事項ヲ記載ス

第一　各株主ノ氏名、住所

第二　各株主所有ノ株式ノ数及ヒ株券番号

第三　各株式ニ付キ拂込ミタル金額

第四　各株式ノ得及取及ヒ譲渡ノ日附

第四款　株式

第七十五条　各株式ノ価額ハ會社資本ノ一定平等ニ分チタルモノニシテ二十円ヲ下ルヿヲ得ス又其資本ハ十万円以上ナル中ハ五円ヲ下ルヿヲ得ス

第七十六条　株式ハ一株毎ニ株券一通ヲ作リ之ニ其金額、発行ノ日附、番号、高号、社印、取締役ノ氏名印及ヒ株主ノ氏名ヲ載ス

第七十七条　株式ハ分割又ハ併合スルヿヲ得ス

第七十八条　株金ノ一分ノミヲ拂込ミシタル間ハ會社ハ假株券ヲ発行シ全額完拂ノ後ニ至リ始メテ本株券ヲ発行スルヿヲ得

第七十九条　假株券及ヒ本株券ハ登記前ニ之ヲ発行スルヿヲ得ス

第八十条　株金額ハ少ナクトモ其一分ノ拂込前ニ為シタル株式ノ譲渡ハ無効タリ

第八十一条　株式ノ移転ハ得取者ノ氏名ヲ株券及ヒ株主名簿ニ記載スルニ非サレハ会社ニ対シテ其効ナシ

第八十二条　株金未納額ノ擔保義務ヲ負フ会社ニ対シ其株金未納額ノ擔保義務ヲ負フ株式ノ譲渡人ハ

第百八十三条　會社ハ株主名簿及ヒ計算ノ閉鎖ノ為メ公告ヲ為シタル事業年度毎ニ一ヶ月ヲ超エサル期間株券ノ譲渡ヲ停止スルヿヲ得

第百八十四条　株金額及ヒ會社財産中ノ持分ハ會社解散前ニ於テハ之ヲ取戻サントスルヿヲ得ス

第五款　取締役及ヒ監査役

第百八十五条　總會ハ株主中ニ於テ三人ヨリ少ナカラサル取締役ヲ三ヶ年以内ノ時期ヲ以テ選定ス但其時期満了ノ後再選セラルヽハ妨ナシ

取締役ハ同役中ヨリ業務最根ス中事務取締役置ヲ得然レトモ其責任ハ他ノ取締役ト同一ナリ

第百八十六条　取締役ノ代理権及ヒ其権ノ制限ニ付テハ第百四十三条及ヒ第百四十四条ノ規定ヲ適用ス

第百八十七条　取締役ニ選ハルヽ為ノ株主ノ所有スヘキ株数ハ會社定款ニ於テ之ヲ定ムル取締役ノ在任中ハ其株券ヲ融通ヲ禁スル印ヲ捺シ之ヲ會社ニ預リ置クヿヲ可シ

第百八十八条　取締役ハ其職分上ノ責務ヲ盡スヿヲ及ヒ定款並ニ会社ノ決議ヲ遵守スルヿニ付キ會社ニ對シ自己ニ其責任ヲ負フ

第百八十九条　取締役ハ会社ノ義務ニ付キ各株主ニ選ナラサル責任ヲ負フ然レトモ定款又

ハ総会ノ決議ヲ以テ取締役ノ在任中ニ生シタル義務ニ付キ取締役カ連帯無限ノ責任ヲ負フ可キ旨ヲ豫メ定ムルヲ得其責任ハ退任後一ケ年ノ満了ニ因テ消滅ス

第百九十条　取締役ノ更迭ハ其度毎ニ登記ヲ受ク可シ

第百九十一条　総会ハ株主中ニ於テ三人ヨリ少ナカラサル監査役ヲ二ケ年内ノ時期ヲ以テ撰定ス但其時期満了ノ後再撰セラルヽハ妨ナシ

第百九十二条　監査役ノ職分ハ左ノ如シ

第一　取締役ノ業務施行カ法律命令定款及ビ総会ノ決議ニ適合スルヤヲ監査シ且総テ其業務施行上ノ過怠及ヒ不整ヲ検出スルヿ

第二　計算書財産目録貸借対照表事業報告書利息又ハ配当金ノ分配案ヲ調査シ株主総会ニ報告ヲ為スヿ

第三　会社ノ為ヲニ必要又ハ有益ト認ムルトキハ総会ヲ招集スルヿ

第百九十三条　監査役ハ何時ニテモ会社ノ業務ノ実況ヲ査問シ会社ノ帳簿及ヒ其他ノ書類ヲ展閲シ会社ノ金庫及ヒ其全財産ノ現況ヲ検査スルノ権利アリ

第百九十四条　監査役中ニ於テ意見ノ分レタルトキハ其意見ヲ總會ニ提出ス

第百九十五条　監査役ハ第百九十二条ニ掲ケタル責務ヲ缺キタルニ因リ会社又ハ其債權者ニ加ヘタル損害ニ付キ責任ヲ負フ

第百九十六条　取締役又ハ監査役ハ給料又ハ其他ノ報酬ヲ受クルコトヲ得ルトキハ定款又ハ總会ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第百九十七条　取締役又ハ監査役ハ何時ニテモ總会ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得其解任セラレタル者ハ会社ニ對シ解任後ノ給料若クハ其他ノ報酬又ハ償金ヲ請求スルコトヲ得

第六款　株主總會

第百九十八条　總會ハ取締役監査役又ハ其他此法律ニ依リ招集ノ權ヲ有スル者之ヲ招集ス

第百九十九条　總會ノ招集ハ會日ヨリ少ナクトモ十四日前ニ其會議ノ目的及ヒ事項ヲ示シタル定款ニ定メタル方法ニ從ヒ之ヲ爲ス

此規定ハ創業總會ノ招集ニモ亦之ヲ適用ス

第二百条　通常總會ハ毎年少ナクトモ一回定款ニ定メタル時ニ於テ之ヲ開キ其總會ニ於テハ前事業年度ノ計算書、財産目録、貸借對照表、事業報告書、利息又ハ配当金ノ名目、株主

ニ亦シテ其決議ヲ為ス
取締役ノ提出スル書類ニ付テノ監査役ノ報
告書ハ其書類ト共ニ之ヲ提出ス
第二百四条　臨時總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル
為メ何時ニテモ之ヲ招集スルヲ得又總會株金
ノ少ナクモ五分ノ一ニ当ル株主ヨリ會議ノ目
的ヲ示シテ申立ツルトキハ亦臨時總會ヲ招集
セサルヲ得ス
（臨時ノ外定款ノ規定）
第二百五条　總會ハ此法律ニ於テ別段ノ規定
数ノ定ニ従ヒテノミ決議ヲ為スヲ得定数
ニ其定ナキトキハ總株金ノ少ナクモ四分ノ一ニ
当ル株主出席シ其議決権ノ過半数ニ因テ決
議ヲ為ス
第二百六条　定数ノ変更及ヒ任意ノ解散ニ付
テノ決議ヲ為スニハ第二百六十四条ニ定メタ
ル決議ノ方法ニ依ル
第二百七条　株式會社ニモ亦之ヲ適
用ス
第二百八条　株主ノ議決権ハ一株毎ニ一箇ノル
ヲ通例トス然レトモ十一株以上ヲ有スル株主
ノ議決権ハ定款ヲ以テ其制限ヲ立ツルヲヲ
得
第二百九条　定款ノ変更
第二百十条　會社ハ定款ニ定アルトキ又ハ總會

ノ決議ニ依リ定款ヲ変更スルヿヲ得然レトモ
法律ノ規定又ハ政府ヨリ免許ニ附シタル条
件ニ違背スルヿヲ得ス
第二百六条　會社資本ノ増加ハ株券ノ金額ヲ
増シ又ハ新株券若クハ債券ヲ発行シテ之ヲ
為シ又其減少ハ株券ノ金額又ハ株数ヲ減シ
テ之ヲ為スヿヲ得但資本ハ其全額ノ四分一
迄減スルヿヲ得ス然債券ハ記名ノモノ
ニシテ其金額ニ付テハ第百七十五条ノ規定
ヲ適用ス
第二百七条　会社資本ヲ減セントスルトキハ會
社ハ其減少ノ旨ヲ總テノ債権者ニ通知シ且

異議アル者ハ三十日内ニ申出ツヘキ旨ヲ催
告スルヿヲ要ス
第二百八条　前条ニ掲ケタル期間内ニ異議ノ
申出アラサルトキハ異議ナキモノト看做ス
異議ノ申出アリタルトキハ會社ハ其債務ヲ弁
償シ又ハ之ニ擔保ヲ供シテ異議ヲ取除キタ
ル後ニ非サレハ資本ヲ減スルヿヲ得ス
第二百九条　資本ノ減少シタル部分ノ拂戻ヲ
受ケタル株主ハ過徳ナキ不知ノ為メ其減少
ニ付キ異議ヲ申出ツサル債権者ニ對シ登記
ノ日ヨリ二ケ年間其受ケタル拂戻ノ額ニ至
ルマテ自己ニ責任ヲ負フ

第二百十条　會社ノ定款中既ニ登記ヲ受ケタル事項ヲ変更シタルトキハ直ニ其変更ノ登記ヲ受クヘシ登記前ニ在テハ其変更ノ効ヲ生セス

營業所ヲ移轉スルトキハ旧所在地ニ於テ移轉ノ登記ヲ受ケ新所在ニ於テハ新ニ設立スル會社ニ付キ要スル諸件ノ登記ヲ受クルモノトス

同一ノ地域内ニ於テ移轉スルトキハ移轉ノ登記ヲ受クルヲ要セス

第二百十一条　會社定款ノ変更ノ登記ヲ受ケタルトキハ地方長官ヲ経由シテ主務省ニ其変更ヲ届出ツルヲ要ス

第八款　株金ノ拂込

第二百十二条　株金拂込ノ期節及ヒ方法ハ定款ニ於テ之ヲ定ム其拂込ヲ催告スルニハ拂込ノ日ヨリ少ナクトモ十四日前ニ株主ニ通知スルヲ要ス其通知ニハ拂込ヲ為サヽル為ノ株主ノ被ムル可キ損失ヲ併示ス

第二百十三条　拂込期節ヲ怠リタル株主ハ年百分ノ七ノ遅延利息及ヒ其遅延ノ為メニ生シタル費用ヲ支拂フノ義務アリ

第二百十四条　拂込ヲ怠リタル株主カ更ニ少ナクトモ十四日ノ期間ニ於テ拂込ムヘキノ催告ヲ会社ヨリ受ケ仍ホ拂込ヲ為サヽルトキ

ハ會社ハ其株主ニ對シ株券ノ所有權ヲ失ヒタリト宣言スルヿヲ得然ルトキハ其株券ハ會社ノ所有ト爲ル

第二百十五條　所有權ヲ失ヒタリト宣言セラレタル株券ノ從前ノ所有者ハ會社ニ於テ其株券ヲ公賣スルヿヲ其代金既ニ催告ヲ受ケタル拂込金額ニ滿タサル時ハ其不足金及ヒ第二百十四條ニ記載シタル利息並ニ費用ノ支拂ニ付キ仍ホ責任ヲ負フ但剰余アルトキハ會社ハ之ヲ從前ノ所有者ニ還付ス

會社ハ其定款ヲ以テ別ニ違約罰金ヲ拂フヿヲ定ムルヿヲ得

第九款　會社ノ義務

第二百十六條　會社ハ株金ノ全部又ハ一分ヲ株主ニ拂戻スヿヲ得ス

若シ拂戻シタルトキハ其金額ハ會社又ハ其債權者直接ニ之ヲ取戻サルヿヲ求ムルヿヲ得

第二百十七條　會社ハ自己ノ株券ヲ得取シ又ハ之ヲ質ニ取ルヿヲ得又所有權ヲ失ヒタリト宣言セラレタル株券又ハ債務ノ弁償ノ爲ノ若クハ其他ノ事由ニ因リ會社ニ交付セラレ若クハ移屬シタル株券ハ一ケ月内ニ於テ公ニ之ヲ賣リ其代金ヲ會社ニ收ム

第二百十八條　會社ハ毎年少ナクモ一回計算

ヲ閉鎖シ計算書財産目録、貸借對照表、事業報告書、利息又ハ配当金ノ分配案ヲ作リ監査役ノ調査ヲ受ケ總会ノ認定ヲ得タル後其財産目録及ヒ貸借對照表ヲ公告スヘシ其公告ニハ取締役及ヒ監査役ノ氏名ヲ載スルヲ要ス

第二百十九条　利息又ハ配当金ハ損失ニ因リ減シタル資本ヲ填補シ及ヒ規定ノ準備金ヲ加取シタル後ニ非ラサレハ之ヲ分配スルヲ得ス

準備金カ資本ノ四分一ニ達スルマテハ毎年ノ利益ノ少ナクトモ二十分一ヲ準備金トシテ積置クヲ要ス

第二百十条　前二条ノ成規ニ因ラシテ抽出シタル利息又ハ配当金ハ會社又ハ其債権者直接ニ之ヲ取戻サントスルヲ得

第二百十一条　利息又ハ配当金ノ分配ハ各株主ニ付キ抽出シタル金額ニ應シ総株主ノ間ニ平等ニ之ヲ為ス

第二百十二条　會社ハ其本店及ヒ各支店ニ株主名簿、諸見書、定款、設立免許書、総会ノ決議書、毎事業年度ノ計算書、財産目録、貸借對照表、事業報告書、利息又ハ配当金ノ分配案及ヒ抵当若クハ不動産質入ノ債権者ノ名簿ヲ備置キ通常ノ取引時間中何人ニテモ其求ニ應シ

展覽ヲ許スノ義務アリ

第二百廿三条　諸帳簿檢査ノ為メ事業年度毎ニ一回一ヶ月ヲ超エサル期間前條ニ定メタル展覽ヲ停止スルヿヲ得

第十款　会社ノ檢査

第二百廿四条　総株金ノ廿分ノ一ニ当ル株主ノ申立ニ因リ会社営業所ノ地方裁判所ハ一人又ハ数人ノ官吏ニ会社ノ業務ノ実況及ヒ財産ノ現況ノ檢査ヲ命スルヿヲ得

第二百廿五条　檢査官吏ハ會社ノ金匣、財産現在高帳簿及ヒ總テノ書類ヲ檢査シ取締役及其他ノ役員ニ説明ヲ求ムルノ權利アリ

第二百廿六条　檢査官吏ハ檢査ノ顛末及ヒ重前ニ於テ為シタル供述ヲ調書ニ記載シ之ヲ授金ノ裁判所ニ差出スヿヲ要ス

調書ノ謄本ハ裁判所ヨリ之ヲ會社ニ付与シ又株主及ヒ其他ノ者ヨリ手数料ヲ納ムルヿハ其求ニ應シテ之ヲ付与ス

第二百廿七条　主務省ハ何時ニテモ其權職ヲ以テ地方裁長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ第二百廿四条ニ掲ケタル檢査ヲ為サシムルヿヲ得

第十一款　取締役及監査役ニ對スル訴訟

第二百廿八条　総会ハ監査役又ハ特ニ選定シタル代人ヲ以テ取締役ニ対シ又代人ヲ以テ監査役ニ対シ訴訟ヲ為スヲ得

第二百廿九条　会社資本ノ廿分ノ二十分ノ一ニ当ル株主ハ亦特ニ選定シタル代人ヲ以テ取締役又ハ監査役ニ対シ訴訟ヲ為スヲ得但各株主ノ自己ノ名ヲ用ヰ又ハ第加人ト為リ裁判所ニ於テ其権利ヲ保衛スル権ヲ有スルノ場合ヲ除ク

第十二款　会社ノ解散

第二百卅条　会社ハ左ノ諸件ニ因テ解散ス

第一　定款ニ定メタル場合

第二　株主ノ任意ノ解散

第三　株主ノ七人未満ニ減シタル時

第四　資本ノ四分ノ一未満ニ減シタル時

第五　会社ノ破産

第六　裁判所ノ命令

第二百卅一条　会社解散ノ場合ニ於テハ既ニ始メタル取引ヲ完結シ又ハ現ニ存在スル会社義務ヲ履行スルノ外其業務ヲ止ム取締役之ニ拘ラズシテ営業ヲ続行スル時カ為メ其全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

第二百卅二条　会社解散ノ場合ニ於テハ取締役ハ総会ヲ招集シ解散ノ決議ヲ取ル但裁判

所ノ命令ニ因リ解散スル場合ハ此限ニ在ラス

其総会ニ於テハ破産ノ場合ヲ除クノ外一人又ハ数人ノ清算人ヲ選定ス

第二百廿三条　前條ニ掲ケタル解散ノ決議又ハ清算人ノ選定ヲ為サヽルトキハ地方裁判所ハ債権者若クハ株主ノ申立ニ因リ又ハ職権ニ因リ其命令ヲ以テ決議ニ換ヘ又ハ清算人ヲ任スルヿヲ得

第二百廿四条　会社ノ破産ノ場合ヲ除クノ外決議後七日内ニ解散ノ原由日附及ヒ清算人ノ氏名住所ノ登記ヲ受ケシヿヲ地方裁判所ニ

届出ヲ又何レノ場合ニ於テモ之ヲ各株主ニ通知シ且地方長官ヲ経由シテ主務省ニ届出ツルヿヲ要ス

第二百廿五条　地方裁判所ハ解散及ヒ清算ノ実況ヲ監督視スルノ権アリ

第二百廿六条　登記ヲ受クルト共ニ取締役ノ代理権ハ清算人ニ移ル然レトモ取締役ハ清算人ノ求ニ應シ清算事務ヲ補助スルノ義務アリ

第二百廿七条　登記後ニ為シタル株式ノ譲渡及ヒ清算ノ目的ノ為ノミニセサル財産ノ処分ハ總テ無効タリ但特別ノ理由アリテ地方裁

判所ノ許可ヲ得タルトキハ其限ニ在ラス

第二百廿八条　取締役カ総会ノ招集又ハ登記ノ届出ヲ為サヽリシトキハ其カ為ノ会社又ハ第三者ニ生セシメタル損害ニハキ其全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

第二百廿九条　解散及ヒ清算ノ費用ハ現在ノ会社財産中ヨリ最モ先ニ之ヲ支拂フモノトス

第十三款　会社ノ清算

第二百四十条　清算人ノ職分ニ付テハ第百三十条及ヒ百三十一条ヲ適用ス

第二百四十一条　清算人ノ職分ノ践行ニ付テハ総会ヨリ又ハ株主若シクハ債権者ノ申立ニ因テ地方裁判所ヨリ清算人ニ訓示ヲナスルヿヲ得清算人ハ其訓示及ヒ法律ノ規定ヲ遵守スルノ責任ヲ負フ

第二百四十二条　会社ノ債権者ノ相当ノ理由ヲ以テ為シタル申立ニ因リ總会又ハ時宜ニ従ヒ地方裁判所ハ債権者ノ利益護視ノ為メ一人又ハ数人ノ代人ヲシテ清算ヲ監査シ又ハ清算人ニ参加セシムルヿヲ得

第二百四十三条　清算人ハ其選定ノ日ヨリ六十日内ニ会社帳簿ニ依テ其財産ノ現況ヲ取調ヘ如ナリ仕三回ノ公告ヲ以テ債務者ニハ其債務ノ弁済期限ニ至リタル時直チニ之ヲ

弁償スヘキ又債権者ニハ或期限内（再ビ其債権者ニ申出ヲ為サシム可キ旨ヲ告スヘシ但其期間）ヲ下ルヿヲ得ス

其公告ニハ債権者期間内ニ申出ヲ為サヽル日ハ其債権ヲ清算ヨリ除ク旨ヲ附記スヘシ清算人ハ期間内ニ申出ヲサヽル債権者ト雖ヒ其知レタル者ヲ清算ヨリ除クヿヲ得ス

第二百四拾四条　清算人ハ其期間満了前ニ於テハ債権者ニ支拂ヲ為シ始ムルヿヲ得ス

第二百四拾五条　期間後ニ申出タル債権者ハ會社ノ債務ヲ清濟シタル後未タ株主ニ分配セサル會社財産ノミニ對シ其弁償ノ請求ヲ為スヿヲ得

第二百四十六条　清算人ハ清算ノ為メ株主ヲシテ其夫々全額ヲ拂込マサル株券ニ付キ拂込ヲ為サシムルノ権利アリ

第二百四十七条　清算人ハ必要又ハ有益ト認ムルトキハ何時ニテモ総會ヲ招集スルヿヲ得

又清算人ハ定款又ハ總会ノ決議ヲ以テ定メタルトキハ又ハ総株金ノ少クモ十分一ニ当ル株主ヨリ申立ツルトキハ総會ヲ招集スルノ義務アリ

第二百四十八条　清算人ハ委任事務ヲ履行シタル後總会ニ計算書ヲ差出シテ其認定ヲ求

ム

第二百四十九条　清算人ハ前条ニ掲ケタル認定ヲ得タルトキハ會社ノ債務ヲ清済シタル残余ノ財産ヲ各株主ニ其所有株数ニ應シ金銭ヲ以テ平均ニ分配ス此分配ハ総債権者ニ弁償シタル時ヨリ三ケ月ノ満了ノ後ニ非ラサレハ之ヲ為スヲ得ス

株主ハ總会ニ於テ金銭ニ非サル物ヲ以テ分配スヘキノ決議ヲ為シタルトキト雖ト之ヲ受取ルノ義務ナシ

第二百五十条　清算ノ終リタル後清算人ハ總計算書及ヒ一般ノ事務報告書ヲ総會ニ差出シテ却任ヲ求ムル若シ總會ニ於テ却任ヲ許サルトキハ地方裁判所ハ清算人ノ申立ニ因リ其余令ヲ以テ之ヲ許スト否トヲ定ム但其余令ニ對シ抗告ヲ為スヲ得

第二百五十一条　清算人ハ其行為ニ付キ總会ノミニ對シテ責任ヲ負フ然レトモ其行為ニ因リ或ル株主ノ一己ノ権利ヲ害シタルトキハ其株主ハ清算人ニ對シ其權利ノ承認及ヒ損害ノ賠償ヲ求ムルヲ得

第二百五十二条　清算人ハ却任ヲ得タル後商業登記簿ニ清算結了ノ登記ヲ受ケタルヲ公告ス其公告ニハ清算ニ付キ生シタル會社

ニ對スル請求アリシ之ヲ三ケ月ノ期間内ニ
主張スヘキ旨ノ催告ヲ附スル其請求アリタル
トキハ清算人ニ於テ之ヲ弁ス
第二百五十三条　清算中ニ現在ノ會社財産ヲ
以テ会社總債權者ニ完済シ能ハサルトキハ分
明ニ至リタルトキハ清算人ハ破産手続ノ開始
ヲ為シテ其旨ヲ公告シ且會社ノ取引所ニ通
知ス
此場合ニ於テ既ニ債權者又ハ株主ニ支拂ヒ
タルモノアルトキハ之ヲ取戻スヿヲ得清算人カ
貸借方ノ此ノ如キ関係ナルヿヲ知リテ為シ
タル支拂ニシテ其受取人ヨリ取戻シ得サル
モノニ付テハ債權者ニ對シテ其責任ヲ負フ
第二百五十四条　總会ノ決議ニ因リ會社ノ帳
簿及ヒ其他ノ書類ノ貯藏ヲ委任セラレタル
者ノ氏名住所ハ清算人ヨリ之ヲ裁判所ニ
届出フ此届出前ニ在テハ清算人其貯藏ノ責
任ヲ負フ
第二百五十五条　清算ノ結果即チ九ノ事項ハ
清算人ヨリ地方裁判所ニ届出テ且之ヲ公告
ス
第一　支拂又ハ未決ニ因リ總債權者ニ弁償
ヲ為シタルヿ
第二　會社ノ残金財産ヲ株主ニ分配シタル

了及ヒ其分配ノ金額

第三 清算費用ヲ弁償済シ及ヒ清算ニ付キ生シタル請求ヲ弁済シタルトキ

第四 総会ヨリ又ハ裁判所ノ命令ニ因リ部任ヲ得タルトキ

第五 會社ノ帳簿及ヒ書類ノ貯蔵ニ関スル処置ヲ為シタルトキ

第六 會社ノ株券又ハ債券ノ其効力ヲ失ヒタルトキ

其清算ノ結果ハ亦清算人ヨリ地方長官ヲ経由シテ主務省ニ届出ツルヲ要ス

第四節 罰則

第二百五十六條 業務報告ノ任アル社員又ハ取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五円以上五十円以下ノ過料ニ処セラル

第一 出資ニ定ムル登記ヲ受クルトキ

第二 登記前ニ開業シタル時

第三百五十七條 株式会社ノ取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五円以上五十円以下ノ過料ニ処セラル

第一 株主名簿ヲ備ヘス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ為シタルトキ

第二 会社解散ノ場合ニ於テ総会ノ招集及ハ株主ヘノ通知ヲ怠リタルトキ

第二百五十八条　株式會社ノ取締役ハ左ノ場合ニ於テハ二十四以上二百円以下ノ過料ニ処セラル

第二百十六条ノ規定ニ反シ株金ノ全部又ハ一分ヲ拂戻シタル時

第二・第二百十七条ノ規定ニ反シ會社ノ為メ其株券ヲ得取シ又ハ質ニ取リ又ハ公賣セサル時

第三　第二百拾八条又ハ第二百拾九条ノ規定ニ反シ利息又ハ配当金ヲ株主ニ拂渡シタル時

第四　第二百二十五条ノ場合ニ於テ會社ノ金

逋賦産現在高帳簿及ヒ總テノ書類ノ檢査ヲ妨ケ又ハ求メラレタル説明ヲ拒ミタル時

会資會社ノ業務擔当ノ任アル社員又ハ取締役カ第百五拾三条ノ規定ニ反シ利息又ハ配当金ヲ社員ニ拂渡シタル時ハ亦本條ニ定メタル罰則ヲ之ニ適用ス

第二百五十九条　株式會社ノ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十四以上百円以下ノ過料ニ処セラル

第一　第二百四十二條ニ定メタル公告ヲ為スヲ怠リタル時

第二　第二百五十三条ノ規定ニ反シ破産申請

ノ開始ヲ為スヿヲ怠タリタル件

第二百六拾条　株式會社ノ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ二十四以上二百四以下ノ過料ニ処セラル

第一　第二百四十四条ノ規定ニ反シ債権者ニ支拂ヲ為シ始メ心ダ心ル時

第二　第二百四十九条ノ規定ニ反シ株主ニ分配ヲ為シタル時

第二百六拾一条　前数條ニ掲ケタル過料ハ地方裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但其命令ニ対シ抗告ヲ為スヿヲ得

過料ノ并納ニ付テハ業務擔当ノ任アル社員取締役又ハ清算人連帯シテ其責任ヲ負フ

第二百六十二条　業務擔当ノ任アル社員取締役監査役又ハ清算人ニ左ノ場合ニ於テハ五十四以上五百四以下ノ罰金ニ処セラル清算人ニキテハ四罰金ニ処セラル一ケ年以下ノ重禁錮ニ処セラル

第一　官廳又ハ總會ニ対シ書面若クハ口頭ヲ以テ會社ノ財産ノ現況若クハ業務ノ実況ニ付キ故意ニ不実ノ申立ヲ為シ又ハ不正ノ意ヲ以テ其現況若クハ実況ヲ隠蔽シタル時

第二　登記ノ届出若クハ公告ノ中ニ詐偽

陳述ヲ為シ又事実ヲ隠蔽シタルトキ
前ニ掲ケタル者ノ外會社ノ他ノ役員及ヒ使用
人カ之ト共ニ犯シタルトキハ亦右ノ罰ニ処セ
ラル

第二百六十三條　登記人カ株式申込ニ付キ詐偽
ノ記載ヲ為シタルトキハ二十円以上二百円以
下ノ罰金ニ処セラル

第二百六十四条　前二条ニ掲ケタル罰ニ処ス
ルニハ刑事裁判上ノ手続ヲ以テス

第五節　共業商業組合

第二百六十五条　共業商業組合ノ契約ハ会社
ニ関スル法律ノ規定ニ従フヲ要セス其

契約ニ因リ商事会社及ヒ會社財産ハ成立シ
ス

第二百六十六条　二人以上共通ノ計算ヲ以テ
一時ノ商ヒ取引又ハ作業ヲ為スヲ当座組合
トシ契約実行ノ為メ其一ノ組合員若クハ
総組合員ニ於テ又ハ共同代理人ヲ以テ為シ
タル行為ニ付キ第三者ニ対シ各組合員直接
ニ連帯ノ權利義務ヲ有ス

第二百六十七条　二人以上各自別箇ニ一時ノ
商ヒ取引若クハ作業ヲ為シ又ハ商業ヲ商ム
ト雖モ其ニ因テ生スル損益ヲ共分スルヲ
契約シタルモノヲ共分組合トシ各組合員ハ

前條ニ掲ケタルト同シキ連帯ノ權利義務ヲ
有スル然シ以他ノ組合員ノ為シタル行為ヨリ
生スル請求ニ對シテハ先訴ノ抗辯ヲ為スノ
權利アリ

第二百六十八条　或人カ損益共分ノ契約ヲ以
テ他人ノ営ム商業ニ出資ヲ供シテ之ヲ其者
ノ所有ニ移シ商号ニ自己ヲ表示スル名称ヲ
顯サス又業務施行ニ參カラサルモノヲ匿名
組合トシ出資未済ノ場合ニ於テ其出資ノ額
ニ満フルマテヲ限リ第三者ニ對シ義務ヲ負
フ
代務人又ハ商業使用人トナリテ用務ヲ執ル

スルハ業務施行ニ參カルモノト看做サス

第二百六十九条　匿名組合ノ損益共分ノ割合
ハ明約アルニ非サレハ営業資本總額ニ對ス
ル出資額ノ比例ヲ以テ之ヲ量定ス

第二百七十条　利益ノ損失ニ因テ減シタル出
資ヲ填補シタル後ニ非サレハ之ヲ分配スル
コトヲ得ス然シテ匿名員ハ受取期限ニ至リテ
未タ受取ラサル利益又ハ既ニ受取リタル利
益ヲ以テ其後ニ生シタル損失ヲ補充スルノ
義務ナシ

第二百七十一条　匿名組合ノ契約ハ其契約ニ
於テ時期ヲ定メサリシトキハ六ケ月前ノ豫告

ヲ以テ之ヲ解除スルヿヲ得又其契約ハ営業者ノ破産若ハハ死亡又ハ其営業ノ廃止ヲ以テ終ル

第二百七十二条　契約解除ノ場合ニ於テ匿名負ノ負擔ニ帰スヘキ損失及ヒ債務ヲ引去リタル後其出資額ヲ之ニ掛戻スヿヲ要ス

第二百七十三条　匿名負ハ契約解除ノ場合及ヒ毎事業年度毎ノ終ニ於テ計算書ノ差出ヲ求ムル及ヒ営業帳簿並ニ書類ヲ展閲調査セシムルノ権アリ

以規定ハ第二百六十七条ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス